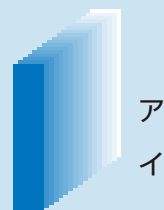




Newspaper in Education



教育に新聞を

実践報告書

2018年度



はじめに ～NIEと震災～

静岡県NIE推進協議会
会長 安倍 徹

毎年夏に、NIE全国大会が開催されます。平成30年度は、岩手県で昨年7月に、「新聞と歩む 復興、未来へ」を大会スローガンに開かれました。東日本大震災後の被災地での開催は初めてとなる大会でした。

今改めて大会資料を開きながら振り返ってみますと、新聞づくりの取組が多く紹介されていたように思います。その内容は、被災地への支援、被災地の町づくりや防災の工夫などをテーマにしたもの、復興に向けて歩む人々の願いを掲載したものなど、震災の状況（過去）、復興の様子（現在）、これからの郷土（未来）について調べたり思いを馳せたりした、大会スローガンを具現化する取組でした。また、筋道を立てて考える力や分かりやすく伝える力を育てるための算数における実践や、古典をより深く理解するための実践としての新聞づくりも行われており、多彩な取組が紹介されていました。新聞の大きさも、はがきから模造紙まで様々なかたちでまとめられていました。

この新聞づくりに関連して思い出すことがあります。それは、8年前になりますが、東日本大震災から2か月後の平成23年5月に、宮城県・岩手県の被災地を訪れたときの体験です。学校の近くにがれきと化した泥まみれの教科書や教材が山と積まれた惨状は衝撃的で、「命を守る教育」の重要性を痛感しましたが、避難所になっている学校の体育館や市役所のロビーに貼られていた多くの手作りの壁新聞に出会ったときは、私自身励まされたことを覚えています。壁新聞には、互いを気遣い励まし合う記事や少しでも役に立ちたいという記事で溢れていたように思います。「新聞にはこんな大きな力があるんだ」ということを実感した体験でした。

新聞づくりが盛んに行われている背景には、震災に負けずに逞しく前向きに歩いて行くことが、亡くなった家族や同郷の人たちへの今生きている者としての責務・使命であるということが、学校教育の場においても、脈々と受け継がれているからではないかと、8年前の体験を思い出しながら感じています。

新聞づくりをはじめ様々なNIEの活動をとおして、防災・減災意識を高めていってほしいと感じています。加えて、命にかかわる事件・事故が社会問題となっている今日、互いの命を尊重し互いの存在を認め合うことの大切さを、NIEの活動をとおして学んでほしいと感じています。

むすびに、本実践報告書の作成に御協力をいただいた関係者に感謝申し上げますとともに、各学校におかれましては、学校の実情を踏まえた教育活動を展開するに当たり、本実践報告書が活用されますことを願っています。

目 次

- ◆子どもの「伝える力」を伸ばすためのNIE実践
富士宮市立上井出小学校 杉山 恵子…………… 3

- ◆「気付く つながる NIE」
～新聞を媒体として～
静岡市立井宮小学校 中村 都…………… 8

- ◆NIEで新聞を身近に
浜松市立西都台小学校 鈴木 秀平……………14

- ◆日常・授業に新聞を。
静岡市立観山中学校 滝 志保……………18

- ◆高まる社会への想像力
静岡聖光学院中学校・高等学校 伊藤 大介……………24

- ◆新聞を学ぶ、新聞で学ぶ
静岡県立三島南高等学校 岩野 隆……………30

- ◆キャリア教育の一環としてのNIE実践
静岡県立遠江総合高等学校 江間 喬……………36

子供の「伝える力」を伸ばすためのNIE実践

富士宮市立上井出小学校 杉山 恵子

1. はじめに

本校は、富士宮市北部に位置する全校児童79名の小規模校である。小規模校であるため、子供全員が顔見知りの温かい雰囲気の中で生活している反面、コミュニケーション能力が不足しているという課題が見られる。その課題を改善していくために、研修主題を「伝える力が伸びる授業」とし授業改善に取り組んでいる。そんな中、平成28年度より3年間、NIE実践の指定を受けた。そこで、研修主題具現化を図る手立てとして新聞活用を通して、子供の伝える力を伸ばす実践を行ってきた。

2. 実践の概要

(1) 学校としての取組

- ①平成28年度 実践テーマ「新聞に慣れ親しむ子供の育成」

各学年の子供の実態に合わせ、他の実践校の取組を参考にしながら新聞活用の取組を行った。主な活動時間を毎週月曜日の朝の活動15分間とし、家庭学習においても新聞に慣れ親しむ内容を盛り込み、全校体制で新聞を活用した実践を行った。

- ②平成29・30年度 実践テーマ「伝える力を伸ばすための新聞活用」

前年度の実践を土台にして、「伝える力を伸ばす」ための新聞を活用した授業等を展開した。また、子供の伝える力を伸ばすために、新聞を活用する取組を通して他校の子供と交流したり、新聞を活用する楽しさを実感できる場を設定したりした。さらに、同様に指定を受けている西富士中学校と連携し、小中9年間を通した新聞活用の取組について研究を進めた。

(2) 新聞の置き場所と整理方法

- ①新聞をより身近なものにしていくための工夫
各新聞社の協力により、新聞販売店から新聞

が配送されてくる。子供が新聞を身近なものと感じ、いつでも触れることができる環境にするために、各教室に新聞コーナーを設置した。



<市販の新聞架による整理 (6年生教室)>



<ハンガーを活用した整理 (3年生教室)>

- ②各学年の取組の様子を知らせるNIEコーナーの設置

他学年の取組を子供が知ったり、来校した保護者や地域の方々に本校の取組を伝えたりするために、朝の活動を中心に行っている各学年のNIE実践を、職員室前廊下に掲示した。



<職員室前のNIEコーナー>

3. 実践の内容

(1) 全校で行った取組・活動

①新聞記事をスクラップするノート

全校児童が、新聞をスクラップするノートを購入し、毎週月曜日に実施される朝の新聞活用の時間を中心に、自分が関心のある記事を見付け、感想を書き、スクラップしていった。また、「伝える力」を育てるために、それらの記事の内容や感想を友達に紹介する場を設定した。

②全校NIEタイム

新聞を使った仲間作りの活動として、縦割りチームを活用して集会活動を行った。「1枚の新聞を切って、チームでどれだけ長くつなげることができるか」を競うゲーム等を通して、チームの友達との交流を深めると共に、新聞の様々な活用方法について体験することができた。



<気になる記事に感想を書き、伝え合う活動>



<全校NIEタイムの活動の様子>

(2) 各学年の実践

<1年生>

①気に入った記事をノートに貼り、それに対する感想を書く活動

月曜日の朝の活動で、あらかじめ記事を選んで増し刷りしたものを配布し、子供が記事の内容を理解するために、教師が難しい言葉等は説明した。子供は、友達に伝えたい箇所にマーカーする等しながら聞き、ノートの左ページにその

記事を貼り、右側に感想を書いた。上野動物園で生まれたパンダの記事について成長を追って感想を書く活動は、子供たちにとって興味のある話題で、自分の思いを楽しそうに伝える姿が見られた。

②新聞に慣れ親しむ活動

カタカナの学習をしたので、記事の中からカタカナの言葉を探し、ノートに書き出した。そしてどんなジャンルの言葉がカタカナになるのか考えた。また、静岡新聞の週刊YOMOっと静岡から新聞チョキチョキアートを拡大カラーコピーし、新聞に慣れ親しむ活動を行った。



<パンダの赤ちゃんを題材にした活動>



<チョキチョキアートに取り組む様子>

<2年生>

①自校の取り組みが紹介された記事について感想を発表し合う活動

自分たちの身近な存在である話題を取り上げた記事を活用して感想を書いたり伝え合ったりする活動を取り入れた。男子ソフトボールチームが大会で優勝した記事を使った活動では、先輩たちの活躍の様子を知り、自分たちの学年での活躍を誓うきっかけとなった。

②授業におけるNIE実践

朝の活動等を通して新聞に触れることで、新聞作りに対する興味関心が高まり、国語や生活科における新聞作りに意欲的に取り組んだ。国語「生きもののことを文章でしようかいをしよ

う」の単元では、新聞に載っていたファール昆虫記の記事を参考にして、自分が調べた昆虫についてまとめ、紹介することができた。



<作成した新聞を披露する2年生>



<記事を紹介し合う2年生>

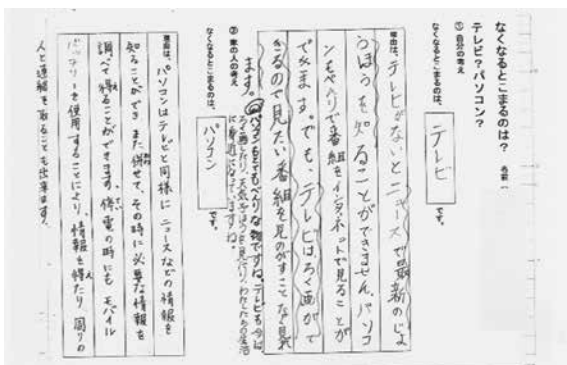
<3年生>

①家庭と連携した取組

「もしもなくなったら困るのは、テレビかパソコンか」という記事をもとに、自分の考えと根拠を書き、家庭でも家の人の考えを聞いて話し合った。子供と保護者の考えが違って興味深い活動になった。

②他校との交流授業における実践

近隣校である人穴小学校との交流会において、「回し読み新聞」の活動を行った。グループ毎に回し読みした新聞の中から各自気になる記事を見つけ、台紙に貼った後、感想を書き合う活動を行った。



<家庭と連携した取組に活用したシート>



<回し読み新聞に取り組む本校、人穴小3・4年生児童>

<4年生>

①国語の授業と関連付けた新聞活用の取組

国語「写真をもとに話そう」の学習では、新聞記事から気になる写真を探し、それについて想像したことをノートに記入し、各自発表する活動を行った。子供たちがそれぞれの感性で感じたことを発表し合う姿が見られた。

②新聞社の見学

各教科における新聞づくりや社会科の学習に行かすために、静岡新聞社の見学を行った。新聞ができるまでの工程や、新聞を制作する上での注意点等を聞くことができ、様々な学習に生かすことができる活動になった。



<新聞から選んだ写真について説明する4年生>



<静岡新聞社の見学をしている4年生>

<5年生>

①新聞記事から他教科に発展した実践

ラフレシアという世界最大の花の曲を作った人がいないという新聞記事をきっかけにして、その記事を読んだ子供が自主学習でその花のイメージに合った歌の作詞・作曲を行った。

②国語の学習と関連付けた取組

国語「新聞を読もう」の単元で新聞についての技法を学んだ。今まで気付かずに読んでいた大見出しや小見出し等の特徴を知り、新聞記事にさらに興味を持つ子供が増えた。また、他教科における新聞作りに役立てることができた。



<他の学習に発展するきっかけになった新聞記事>



<見出しに着目して新聞記事を読んでいる5年生>

<6年生>

①年間を通した取組

年間を通して「ハッピー記事見つけ」を行った。1週間分の新聞記事の中から、自分がハッピーと感じた記事について、毎週月曜の新聞活用の時間に発表し、感想を述べ合う活動を行った。いろいろな人の立場になって考える取組として有効であった。

②他校との交流授業における実践

人穴小との交流授業において、「記事をよく

見よう！」をテーマに、教師があらかじめプランクにしておいた見出しを、記事の内容から予想し、交流する活動を行った。グループ毎考える活動の中で、両校の子どもが積極的にコミュニケーションを図る姿が見られた。



<記事について話し合っている6年生>



<見出しを予想して交流する活動>

4. 実践の成果と課題

(1) アンケートの結果より

- ・約81%の子供が、「自分の勉強のためになった」と回答した。また、約91%の子供が「新聞を使った活動は楽しい」と回答した。

<子供の感想より>

- ・新聞記事は、自分の知りたいことや知らなかったことなどの情報を得たり、記事から様々なことを考えたりすることができるので、時間がある日は新聞を見るようになった。ハッピー記事見付けを続けてきたので、誰から見たらハッピーな記事なのか考えながら読むようになった。(6年男子)
- ・見出しを考える活動が楽しかった。記事を読んで、自分オリジナルの見出しを考えると、自分が新聞を作っている人みたいになった。

普段は新聞に書いてある内容を読むだけでなく、何か目的を持って見るととても楽しく見ることができた。(4年女子)

- ・新聞記事について、多くの人と交流ができ、自由に意見が出し合えるのがおもしろかった。普段は新聞を読まないが、読んでみると勉強になることが多くあった。(交流した人 穴小5年生児童)

(2) 成果

- ・「伝える力を伸ばす」ために友達との交流場面を意図的に設定した。その結果、新聞の記事等を通して感じたことを積極的に伝える子供の姿が数多く見られるようになってきた。
- ・穴小との交流会時に新聞活用の授業を取り入れたことにより、他校への発信及び他校との連携に生かすことができた。
- ・朝の新聞活用で身に付けたコミュニケーション力や文章構成力等を国語や生活科といった教科の新聞作成等の学習に生かすことができた。
- ・視点を与えて新聞を読むことによって、子供が主体的に新聞を読むようになった。「他の人に知らせたい」という思いが生まれ、友達や家族に積極的に伝える姿が見られた。また、家庭や学級で新聞を積極的に読む子供が数多く見られるようになってきた。

(3) 課題

- ・全国学力・学習状況調査の結果を考察すると、語彙力や読解力に課題が見られる。新聞を活用する実践を継続していくことにより、それらの力を伸ばし、さらに他教科で活用できる力を身に付けることができるよう実践を積み重ねていきたい。
- ・「伝える力を伸ばす」ことをねらいとして、他校の児童との交流を行ったことにより、積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿が多く見られるようになってきた。今後、中学校との連携をなお一層図り、付けたい力を明確にした上で、小中9年間を通した取組を進めていきたい。

「気付く つながる NIE」

～新聞を媒体として～

静岡市立井宮小学校 中村 都

1. 3年間の研究の概要

本校は平成28年度より3年間、どのようにしたら新聞を授業や学校生活の中で活用できるのかを手探りで取り組んできた。3年間の取り組みの集大成の年である今年度の実践を中心に報告する。

新聞記事には、情報を提供する他のメディアにはない切実感と緊迫感がある。そして、新聞は一過性ではなく、読み直して考える場を提供してくれる。更に、教科書に載っていない「今」を知るための旬な情報が満載の新聞から、様々な情報を取得することができる。しかし、ただ単に情報を集めることが「知る事」にはならない。新聞の良さを生かして獲得した情報を使って「考える」ことの積み上げが、「知る」ことにつながる。情報過多の時代だからこそ、自分に必要な情報を取捨選択して読み解く力（メディアリテラシー）をつけて「考える」ことで、初めて「知る」ことになるのである。教科書で習得した基礎的・基本的な知識の上に、新聞で知ったことが加わることで、最終的には教科を超えた総合的な力が付いていく。その力が、今を生き抜く力となっていく。

そこで、本校のNIEは、「気付く力」「新聞を通してつながる力」の2つを念頭に置き、「気付く つながる NIE」を研究・実践のテーマとした。「気付く」は「情報を知る」、「つながる」は、「情報の共有」「情報でつながる」に相当する。情報を取得し、皆とつながることで情報を自分たちの考えを導き出す材料として捉えていったのである。更に、新聞には読解力や言語的な力を付けるだけでなく、感性を磨く要素もあることがわかったので、情報を広い意味で捉え、授業の中だけでなくあらゆる場面で活用でき、どの学年でも取り組める「やさしいNIE」を目指した。

2. 毎日届く新聞の活用

(1) 新聞の置き場所と整理の方法

NIE実践指定校として静岡、朝日、読売、毎日、中日、日経、産経の7社から新聞を提供していただいていたが、新聞社ごとに届けられる月が決まっており、平均して毎月3～4社の新聞がNIEコーナーの新聞置き場に並べられた。1週間はそのまま新聞社毎に積み上げて閲覧できるようにし、週末になると職員室の新聞ボックスに運び込み、自由に使えるようにした。NIEコーナーは放送室前があるので、「放送委員が選んだ今日のニュース」で紹介する記事選びのために、毎日放送委員会の子どもたちが置いてある新聞に目を通していた。

(2) NIE掲示板（子ども向け）

NIEコーナーには掲示板もあるので、担当者が新聞ボックスの中にある新聞から、気になるニュースや子どもたちに見てもらいたい記事を選び出し、簡単なコメントを書いて掲示した。

(3) NIE掲示板（教師向け）

先生方が必ず立ち寄る印刷室の掲示板にも、先生向けの記事を不定期で掲示した。難しい記事ではなく、子ども同様、興味をもってもらえるような記事選びを心掛けた。

(4) NIEだより

新聞ボックス内の新聞を使い、是非とも読んでもらいたい記事やコンクールの案内などを掲載し、先生方に少しでも「NIEは使える。」と思ってもらえるようなものを目指した。



3. 3年間の取り組み

本校の研究・実践のテーマ「気付く つながる NIE」の実現に向けて、3つの段階を経てステップアップできるようにした。

(1) 情報を知る（気付く）・・・自分の周りにおける情報に気付いて使う。

まず、第一段階は「情報を知る（気付く）」である。これは、情報を授業や生活の中でどのように活用するかということである。たとえば、新聞スクラップで自分に必要な記事を取得したり、授業の中で資料として使えるものを選んだりする活動につながる。低学年の活動が主になるが、中学年・高学年にとってもNIEの入り口になる。低学年は語彙が少ないため、文章を読み解くというよりも言葉を集めて楽しむ活動を多く行った。

1年生は、夏休み前はひらがなやかたかなを覚えている最中なので、文章はおろか言葉を見つけさえままならない。そのため、言葉を使わなくてもできるNIEはないだろうかと考え、取り組み始めたのが「新聞コラージュ」（図工）である。カラー広告や写真を使って、自分のイメージに合った部分を切り取り、自分で形を作りあげるのである。海の中を描いた「うみのなか」は、背面がすべて水の色をイメージした水色に統一したが、「おしゃれで目立つ きれいなちょうをつくらう」では、背面の色は自分の好きな色を選択させ、蝶はその補色になるように新聞のカラー広告から色を切り取らせた。これは、色・形・質感に注目したメディアリテラシーと言える。後期に入ってから、少しずつ語彙数が増えてきたので、言葉集めに挑戦した。まずは新聞の中からお気に入りの写真を見つけワークシートに貼る「しゃしんみつけ！」(国語)



でその写真を選んだ理由を書くようにした。そして、「ひらがなことばみつけ！」「カタカナことばみつけ！」と続いた。

2年生の「新聞紙からカタカナ見つけ」(国語)では、新聞紙の中にあるカタカナを切り取ってワークシートに貼り、それを使って文を作った。「小学生新聞を使った言葉集め」(国語)は、植物・食べ物・生き物・その他の4つに分類して書き込むワークシートに、自分が知っている夏に関係のあるものを書き出した後、小学生新聞から見つけた夏の言葉をワークシートに書き足していった。新聞と対峙し言葉を切り抜くという活動は、自分と静かに向き合う時間になった。



(2) 情報を共有する・・・新聞記事と自分がつながり、友だちの考えを知る。

第2段階は、「情報を共有する」である。これは、自分に取り入れた情報を友だちとどのように共有していくかということである。たとえば、個人で得た情報を通して考え、友だちと交流し合い情報を共有したり、それぞれが習得した情報をもとに、新たに新聞・フリーペーパー・広告などを作成したりする活動につながる。これは、中学年の活動が主となる。

3年生の「ことばの貯金箱」(国語)は、「好きな言葉をいっばいためて『ことばの億万長者』になろう！」というキャッチフレーズで始まっ

た。貯金箱を見立てた箱を用意し、貯金箱にたまった言葉をワークシートに貼り、吹き出しをつけ、今時のツイッターのように自分の気持ちを自由につぶやくのである。ひとつの言葉をきっかけにして、思いのままに自分を表現していき、最後は出来上がった作品を友だちに紹介し、言葉を伝え合った。

4年生の「和田島新聞作り」(国語)では、自然の家での体験活動を、同じグループだった友だちと協力して新聞を作り上げた。タイトルの付け方、見出しの作り方、紙面構成、図や表の取り入れ方などを本物の新聞を手本として、読みたくなるような紙面にするにはどうしたらよいかを皆で考えた。「新聞スクラップ」では、記事に対する自分の思いや考えを綴り、それを掲示することで自分と友だちとの考えの違いや共通点を知ることができた。

(3) 情報でつながる・・・記事をもとに友だちとつながり、考え、討論する。

第3段階は、「情報でつながる」である。これは、1つの情報をもとに「考え、議論する」ことで、どのようにして新しい価値観を生み出

していくかということである。この段階では、最終的には記事の情報から離れ、自分たちの問題として捉えて考える活動になっていく。これは、高学年の活動が主となる。

5年生が実践した「地域に根差した防災教育」は教科の壁を越え、総合的な学習としての取り組みになった。まずは、災害に焦点を当てた何種類かの記事から、個々に自分の興味のある災害記事を選び、その記事に対する自分の考えをワークシートに書いた。それらを一斉掲示して互いに見合い、友だちの考えを知った。次に、自分たちの災害に対する活動が掲載された2つの静岡新聞の記事をもとに、自分たちの活動を改めて振り返り、考えたことを書き込んで一斉掲示し、見合った。そして、この2つの取り組みを踏まえて、道徳「命を守る防災訓練」を行い、その後、防災新聞を作ったりポスターセッションで地域に発信したりと、活動の場を広げていった。東日本大震災の記事をきっかけとし、防災というキーワードで皆が繋がったのである。

6年生は、「暮らしの中の政治」「戦争と人々の暮らし」(社会)「未来がよりよくあるために」(国語)などで実践した。それと並行して週末は新聞スクラップを行い、自分の考えを作る土台を築いてきた。「暮らしの中の政治」については、静岡市の駿府城公園内の駿府城天守閣から豊臣秀吉が作らせたと思われる城の瓦や石垣が見つかったことを取り上げ、より駿府城公園に観光客を呼び込むための方法を考える活動を行った。教科書で歴史を学び、新聞によってその歴史が「今」はどうなっているかを知ることにより、新聞から離れ自分たちの問題として考える活動に広がっていくことができた。これはまさしく生涯学習の基礎作りと言える。

今年度の6年生はクラス替えはあったものの担任は持ち上がりだったため、5年生の時から2年間学年体制でNIEに取り組んできた。現在の6年生の取り組みに至るまでの、昨年の5年生での活動(公開授業)については、以下の指導案をご覧ください。



第5学年1組 総合的な学習の時間指導案（抜粋）

- 1 単元名 井宮 MKY（もっと・環境・豊か）プロジェクト
～よりよいくらしのために、自分たちのまわりの環境について考え、家や地域に発信しよう～
- 2 単元計画

***総合的な学習の単元と国語科・社会科の枠で表示し、内容的な関連において矢印で提示。**

***NIE 関連の活動については吹き出しで提示**

時	総合的な学習の時間	国語（総合との関連）	社会（総合との関連）
1	オリエンテーション ○環境とは何か 学年テーマを考えよう ・井宮 MKY プロジェクト～よりよいくらしのために、自分たちのまわりの環境について考え、家や地域に発信しよう～ ○学習計画をたてよう	「明日をつくるわたしたち」 （学習の方向付け） *よりよいくらしのために、自分の考えを作り、提案しよう。 （学習の進め方を知る） *話題→理由→現状と問題点→解決する方法→提案	
2	身のまわりにある問題について考えよう。 ○自分たちのくらし（環境）でよりよくしたいことは何か。 （自分の考え・家の人へのインタビュー）		【参考：児童のテーマ】 ・ゴミ・リサイクル ・たばこのポイ捨て ・安倍川に落ちているゴミ ・交通安全 ・野良猫・野良犬・殺処分される動物 ・気温の上昇・地球温暖化 ・町内に公園がない ・騒音問題 など
3	テーマを決めよう。（話題・理由） ○自分が気になっていることをテーマにしよう。 ○テーマ設定の理由 A：気になる記事を理由付けとして活用		
4	調べる計画をたてよう。 ・調べたいことと調べる方法を確認する。		
5	現状と問題点を調べよう。 ○今はどうなっているのか ○何が問題なのか ○インターネット・本・新聞・アンケート・インタビュー・現場での取材などで現状を把握する。 A：現状に関わりのある記事を探す		
9	解決する方法を考えよう。 ○今取り組まれていることを調べよう。 ○実際に行われている取り組みを調べる A：現在の取り組みに関わりのある記事を探す		

	<p>○自分の解決方法を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べたことを参考に、提案したい自分の解決方法を考える。 		
12	家や地域に発信しよう。		
13	<p>○提案することをまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ ・テーマ設定の理由 ・現状（問題点） ・解決方法 <p>現在行われていること 自分の考え（アイデア）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとめ <p>伝えたいこと 自分ができること</p>	<p>「天気を予想する」</p> <p>B：導入時、新聞の天気図からわかることを見つける。（興味付け）</p>	
14	家の人へ発信するための資料を作ろう。		
15	<p>○わかりやすく伝える工夫をしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図、グラフ、表、写真、新聞を活用 	<p>（説明文の図表活用の効果） *短時間での理解・わかりやすい提示</p>	
	A：資料としての記事の活用		
16	友だちと聞きあいアドバイスをもらおう。		
17	家の人に発信しよう。 (家族参観会・個人発表)		
18	地域の人に発信するための資料を作り、発信しよう。（新聞づくり・グループ製作）		
19	C：伝える手段としての新聞製作		
	<p>○地域の人に伝える手段としての新聞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞の特徴・伝える工夫を見つけよう ・新聞製作の手順を確認しよう。 <p>○お互いの資料を紹介して、グループで記事を選ぼう。</p> <p>○記事を書こう。</p> <p>○編成会議を開こう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記事を読んで、見出しやレイアウトを考える。 <p>○下書きをしよう。</p> <p>○校閲・清書をしよう。</p>	<p>「分かりやすく伝える」 (伝わりやすい文章) *相手に応じた言葉・わかりやすい文</p>	<p>「くらしを支える情報」 *新聞と私たちの生活との結びつき *新聞で情報を伝えるよさ *新聞製作の手順</p>
20			
21			
22			
23	地域に向けて発信しよう。		
24	<ul style="list-style-type: none"> ・できあがった新聞を回覧板に載せていただく。 <p>○自分にできることを実践しよう。</p> <p>○振り返ろう。</p>	<p>「次への一步 —活動報告書—」 (活動のまとめ、振り返り) *活動の経過と自分の感想</p>	<p>B：静岡新聞社出前講座 *紙面の構成の工夫 *伝えるために大切にすべきことは・・・ 正確に、 わかりやすく 新聞記事を書く体験</p>

4. 3年間の実践の成果

(1) 新聞からの情報獲得

以前は新聞があっても手にすることがなかった子どもたちが、新聞スクラップなどを通し、積極的に情報を獲得する姿がみられるようになった。

(2) 個の強化・・・自分の考えを作る。

新聞スクラップに取り組むことで、新聞から得た情報を自分なりに分析し、「もし自分だったら」という立場で考えを作り、発言できるようになった。自分の考えを作ることができなければ、友だちと交流することや議論することはできないので、新聞スクラップは自分の考えを作る上での土台となった。

(3) 情報の共有化による学び

個々が得た情報を交流して共有化することにより、新たな情報を獲得したり別の考えが誕生したりすることにもなり、学びが深まるきっかけとなった。

(4) 読む力の定着

自分の関心のある話題について新聞をじっくり読んだり、更に深く詳しく知るために調べたりすることは、読む力の定着につながった。

(5) 読解力だけでなく、感性も伸ばす可能性

低学年では、語彙数が少ないため言語的・読解的な面での取り組みは制限されるが、図工で新聞を素材として使用することにより、色・形・質感などの感性を磨くことができた。「新聞でもできる」ではなく、「新聞でなければできない」素材としての新聞の可能性を見出すことができた。

(3) 家庭への啓蒙

新聞をとっていない家庭が増えているため、5年生の防災の活動が記事として掲載されても、我が子の取り組みを全家庭で共有することができなかった。家庭と学校がつながり、情報の共有化ができればNIEはファミリーフォーカスの形でもっと広がっていくはずである。

NIEは決して難しいものではなく、誰でも取り組むことができ、日常化が図れるものである。ただ、NIEは手段であって目的ではないので、1つのツールとして考え、どれだけ使いこなせるかだと考える。3年間で培ったNIEの力を、今後日常生活の中で、そして授業の中で、どのように活用していくかが今後の大きな課題となる。そして、この情報過多の時代において、NIEは生涯学習と成りうるものと考えているので、今後も楽しみながら、自分の興味・関心のあることに対して自分なりに追究していく姿勢をNIEから学んでいきたい。

5 今後もNIEを継続していくための課題

(1) 教師の新聞活用スキルアップ

「どの記事を、どのタイミングで、どのように使うのか。」を的確に判断する力は、最終的には教師のセンスに関わってくるが、まずは、教師自らがもっと新聞に目を通すことが、新聞活用の力量向上につながる。

(2) 年間指導計画への位置付け

「どの学年の、どの教科の、どの教材でNIEを扱うことができるのか。」を明確にしておけば、余裕をもって準備し、取り組むことができる。

NIEで新聞を身近に

浜松市立西都台小学校 鈴木 秀平

1. はじめに

(1) 本校の紹介

本校は浜松市中心部から西へ7kmほど離れた三方原台地の南端に位置する中平地区にある。学校の周辺には竹林が広がり、豊かな緑を提供している。地域は自治会をはじめ、地域の諸団体がボランティア活動などへの協力を惜しまず学校行事へ積極的に参加するなど、学校と地域との信頼関係は強い。また保護者の教育活動への支援体制も顕著であり、PTA活動も活発に行われている。

子供たちは豊かな自然と心温かな地域の人々に見守られ、明るく素直で優しい児童が多い。その反面で、粘り強さや自分をアピールしようとするのは苦手である。また、自分で考え判断し、行動しようとする主体性に欠ける面もみられる。

(2) 実践にあたり

本校の研修テーマは「主体的に学びを求める子の育成」である。この研修テーマのもと、本校の課題である粘り強さや、自分をアピールしようとする表現力を身に付けさせるために、新聞を活用しようと考えた。

本校の児童は日頃から情報はインターネットやテレビで得ていて、新聞から日常的に情報を得ている児童は少ない。また、活字の多さからか、新聞に距離感のある児童も多い。そのため、学校生活に無理をせず新聞を取り入れるよう意識した。また、実践においては、新聞に触れる機会を多くすることで、新聞に興味を持ち、少しでも距離感を縮められるように心掛けた。

2. 新聞の置き場所と整理方法

(1) 学年ごとの閲覧スペース

学年ごと、教室を出てすぐの廊下に新聞台を設置し、閲覧スペースとした。毎朝届く新聞を新聞台に置くことで、子供たちは興味を持ち、休み時

間等で教室を出た時など、気軽に新聞に親しむことができた。友達と一緒に新聞を読みながら、その日の新聞記事について話し合う姿も見られた。



<閲覧スペースで新聞に親しむ児童>

(2) 階段踊り場での掲示

児童や教員が最も通る階段の踊り場に、掲示スペースを確保し、特集記事を掲示した。「児童が興味を持ちそうな記事」「児童に考えてもらいたい記事」「本校についての記事」を切り抜き、教員のコメントとともに掲示した。教員の大きな負担とならないように、気になる記事があった時に、その都度少しずつ更新するようにした。気になる記事を見つけた時には、ふと足を止めて掲示をじっくりと読む姿が見られた。



<階段踊り場のNIEコーナー>

3. 実践内容

児童の発達段階を踏まえてNIEの目標を設定した。各学級での取り組みは担任が中心となり、授業や朝の会などを使って行った。

	目 標
<低学年>	新聞に親しみ、新聞に慣れる。
<中学年>	新聞の便利さに気付き、新聞に親しむ。
<高学年>	学習に効果的に活用し、新聞の有用性を感じる。

(1) 1年生 図工 「めいしをつくろう」

見本として教師の作った名刺を見せ、新聞を切り取って作ったものであることを話した。

その後、子供たちに一般紙を1枚ずつ渡し、自分の名前に使われている平仮名、片仮名、習った漢字を探して画用紙に貼り、新聞から切り取ったイラストを貼ったり、自分で絵を描いたりして名刺を作った。

初めは、難しそうな顔をして新聞を見ていたが、「〇〇さんの字、ここにあるよ!」とか「ぼくの字が、たくさん使われているよ」と言い、友達と一緒に探す様子も見られた。また、「『日本』は、習った漢字で書けるんだね」など、これまで意識していなかった熟語に気が付き、習った漢字が身近なところで使われていることを実感する機会となった。



<新聞で習った字を探す1年生児童>

(2) 1年生 国語科 「かたかなをみつけよう」

片仮名の書き方を練習したが、どんな時に片仮名を使うのかは、1年生にとっては未知の世界で

ある。そこで、片仮名を探す活動を、子供新聞を使って行った。

教科書や絵本にはほとんど出てこなかった片仮名言葉が、1枚の子供新聞見開きの中で、たくさん発見できることに驚き、赤鉛筆で次々と囲っていった。2人組で探すことにしたが、自分のペースで、自分の気に入った片仮名言葉を赤で囲みたいという気持ちから、紙面の左右で分けたり、「一人1枚ください。」というリクエストが出たりした。

学習の後半には新聞を交換し、違うグループが見つけた片仮名言葉を読んだ。そして、その新聞でさらに新しい片仮名言葉を探して楽しみ、片仮名言葉を書くことに意欲的に取り組んだ。

片仮名探しの活動が気に入った子供たちは、朝読書の時間にも、子供新聞を読むようになった。



<赤鉛筆で片仮名の言葉が囲まれた新聞>

(3) 3年生 朝活動 「まわし読み新聞作り」

朝の活動時間に、新聞に親しむために、グループで「まわし読み新聞作り」を行った。新聞から興味を持った記事を切り取って台紙に貼り付け、記事を読んだ感想をみんなで読み合った。四コマ漫画や地域の情報を知らせる写真、スポーツニュースなど様々な情報が集まった。そして、大事な所にマーカーで印を付けたり、感想を書き込んだりして、「まわし読み新聞作り」を楽しんだ。

新聞を読む活動から、新聞に興味を持ち、進んで読む児童が増えた。教師が取り上げる新聞の内容に対して、「そのこと、新聞で見たよ」と返答をしたりする児童が増え、学校だけでなく、家でも新聞に目を向けたりする児童が増えた。



<「まわし読み新聞作り」をする3年生児童>

(4) 4年生 国語

「新聞記者になって説明しよう！」

初めに、映像や写真の撮り方である「アップ」と「ルーズ」について、教科書に載っている写真資料でその違いを確認した後、新聞記事から「アップ」と「ルーズ」を探す活動を行った。これにより、子供たちは、実際の新聞で色々な写真が使われていることや、写真の撮り方で様々な情報が伝えられること、写真を使うことで、記事そのものに対して読んでみたいという興味が高まった。

新聞への興味が高まったところで、学習の最後に自分でも「アップ」や「ルーズ」の手法を使って新聞記事を書こうと投げ掛けた。学習が進むにしたがって、新聞に興味を持ち、進んで読む子供や、友達と一緒に新聞を見て「この写真はアップで撮っているから分かりやすいね。」などと話しながら読んでいた姿が見られた。

自分が伝えたい内容に合わせて写真の撮り方を工

夫することができた子供が多かった。お互いに書き上がった記事を読む際も興味を持ちながら読むことができた。



<アップやルーズの写真を活用した4年生児童の作品>

(5) 5年生 特別活動「新聞リレー」

朝の活動や授業で新聞記事を扱っていくうちに、新聞記事を読んで意見を書くことや、友達を選んで記事や意見を読むことに楽しさを感じるようになった。そのため「新聞ノート」を作成し、交換ノートのように当番から当番へと渡していく「新聞リレー」を始めた。スポーツや地域、政治など、自分たちが興味を持った記事をスクラップし、意見を記入した。

新聞リレーを続けていくことで、今日はどの記事にしようかと朝から新聞を読んだり、昨日はどんなニュースがあったかを友達同士で語ったりする姿が見られた。



<5年生が作成した「新聞ノート」>

(6) 6年生 社会科

「みんなのためになる税金の使い道を考えよう」

新聞記事を使って、公共サービスや税金がどのように使用されているのかを学んでから、租税教室を開催し、税務職員の方から税の仕組みと重要

性を教えていただいた。そして、まとめの活動として、自分が予算編成を任される立場になるシミュレーション学習を組んだ。

借金返済、教育、防衛、交通、景気対策、医療・福祉、防災の7つの項目から、自分たちはどう予算を活用するかを、事前に用意した新聞記事を根拠に話し合わせた。

新聞記事を使うことで、現在動き続けている社会状況に合わせた学習活動になり、また新聞記事の内容を関連付けることで学習内容が自分たちの現在、または将来に関わりがあることを意識させることができた。



<新聞を活用したワークシート>



<新聞記事を基にして話し合う6年生児童>

いう話をする事ができ、時事問題への教員の意識も高まった。

- 授業におけるまとめの活動では、新聞作りの場を多く設定した。新聞を作成することを通して、自分の思いが相手により伝わるように表現方法を工夫する子供が増えた。
- 発達段階に応じて、全校で無理なく取り組めた。様々な場面で活用したことにより、教科書だけでは学べない生活と絡んだ深い学びができた。

(2) 課題

- 一部の単元で新聞を活用することはできたが、継続的に授業で活用できなかった。
- 新聞記事には社会科や総合的な学習の時間の教材となるものが多くある。それを収集、整理、活用するための方法を工夫する必要がある。
- 新聞を購読していない家庭が増え、学校で新聞を用意できることも制限がある中で、NIEの活動を学校で続けていくためには、さらなる工夫が必要だと感じた。

4. 成果と課題

(1) 成果

- 廊下に新聞台を置いたことにより、休み時間等に新聞を読んでいる姿が見られ、新聞との距離感が縮まっていると感じた。
- 毎日届く新聞を見て、教員同士でも、「今日は一面にこんなニュースが載っていますね」と

日常・授業に新聞を

静岡市立観山中学校 滝 志保

1. はじめに

本校は静岡市の郊外に位置し、遊水池と隣接して広がる水田の真ん中に校舎が建っている。3年生7クラス、2年生7クラス、1年生6クラス、全校生徒630名余りであり、大規模校といえる。

素直で明るく元気な生徒が多いが、読書の習慣はあまりなく、新聞を購読していない家庭も多い。生徒の普段の情報源はネットニュースかTVである。

本校の研修テーマは「聴いて、考えて、つながる授業～語彙力の育成とともに～」である。残念な実態だが、観山中の生徒は、文を読んだり、人の話を聞いたりする時に、骨子・文脈が読み取れていない・聞き取れていない、という生徒が多い。原因は多く考えられるが、そのうちの一つが「語彙力の不足」ではないか、と私たち職員はとらえている。

そのため、授業時には用語の解説を丁寧に行ったり、教科書の音読を重視したり、朝自習に読書を導入したり、全校を上げて年3回学習コンクールという国数英の基礎知識を問うテストをしたりしている。

そのような本校ではNIEを実践するにあたり、「まず、新聞に親しむところから始めよう。」と全職員の共通認識のもとにスタートした。通年・定期的に継続して実施でき、朝自習や授業に無理なく取り入れていくことが可能で、できるだけ多くの生徒が新聞に親しめることを心がけた。

2. 実践内容

(1) 朝の新聞タイム

(全校 週1回 年間30回前後)

月曜日ごと、朝読書の時間(20分)に、全校生徒に同じ内容のA4縦サイズの記事が配布された。作成は全職員が交代で行い、その順番を4月当初の職員会議で発表した。

どのような記事を選ぶかは各職員に任されたが、読み解く力に配慮をした方が良い生徒も多いので、小学校6年生ぐらいをイメージして記事を選ぶよう、職員会議で確認した。また、静岡新聞社HPの「新聞を使おう ワークシート案内」の利用も奨励した。

生徒は記事の文で大切だと思うところに赤線を引き、感想を記入した。担任が感想に目を通し、学級掲示等に活用したり、道徳教材に利用したりした。

(この授業の生徒の感想・意見は後に続く資料1に、学級便りとしてまとめられている。)

☆記事の紹介

- ・日本各地の消防団に外国人
- ・クジラ、ポリ袋で死ぬ
- ・いじめ、最多の41万件 など

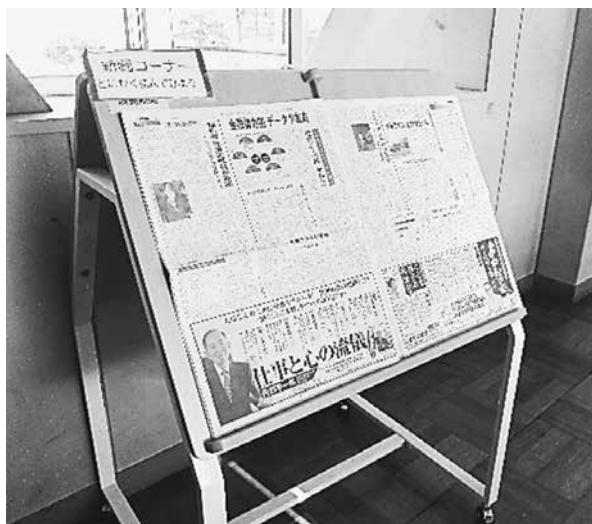


(教室掲示の例)

(2) 新聞の展示

(各学年フロアに1カ所 写真)

新聞協会による新聞購読支援で、9～2月に、のべ7紙が観山中に届けられた。各紙学校に1部ずつの配布のため、各学年フロアに1～2紙ずつ配置した。毎日の交換は教員が行った。



(各階の新聞コーナー)

(3) ニューススクラップノートの作成

(中3対象 年12回実施)

宿題として、生徒は新聞記事を読み、A 6の用紙に以下の内容を書き出し、提出した。

- ①記事の見出し
- ②いつ、どこで、だれが、何を、どうした
- ③記事を読んで分かったこと・感想

本来は生徒一人一人が新聞に目を通し、興味を持った記事を選ぶことが望ましい。しかし、「新聞を取っていない」「どの記事を読めば良いか分からない。」「難しい記事が多い。」と戸惑う生徒が多かった。そのため、1回出題するたびに、教師が2種の記事を選んで配布した。政治・経済・国際のように読み解くための難易度が高い記事と、地域・教育・スポーツのように親しみやすく読みやすい2つの記事を組み合わせ、できるだけ多くの生徒の関心・意欲を引き出せるように心がけた。もちろん、「自分で記事を選んでほしい。」と促したが、記事を自選できた生徒は少なかった。

また、読み解き易さの他に記事の選び方はいくつか視点を設けた。

- ①意見が対立する記事。
 - 例・名古屋城を再建。昔のまま再建するか、バリアフリー化するか、。
 - ・日本でのカジノ開業を認めるべきか。
- ②社会の授業内容に関わる記事
 - 例・過労死
 - ・子どものいる女性が市長に就任
- ③生徒の世代に関わりが深い記事
 - 例・日本、18歳成人を制度化

・少子高齢化すすむ

④現代社会の様子・技術革新

例・飛べなくしたテントウムシでアブラムシを退治

・スマホのアプリで食品ロスをふせぐ

生徒の考えがよく表された感想を授業時に紹介した。

(4) 時事問題テスト

(中3対象 年3回実施 30点満点)

NIEに取り組む以前から時事問題テストを実施していたH教諭がおり、テストの期日を決め、それに向けて新聞TV等のニュースに目を通しておくよう呼びかけた。出題される問題の内容は幅広く、スポーツ、科学、文化、芸能、政治、経済と多岐にわたった。

最初、生徒たちは、戸惑っていたが、1年、2年、3年と学年が進むうちに、ニュースに関心を持つようになり、新聞やTVの報道番組を定期的に見るようになったり、地名や人名、重大な出来事の概要などを正確に覚えようとしたりする習慣がついた。

(後に続く資料2参照)

3. 成果と課題

○成果

新聞を購読している家庭は63%ほどだが、中学校のNIE以外で新聞を読む生徒は34%なので、家庭に新聞があれば中学生は新聞を読む、というわけではないのである。生徒の情報源はインターネットとTVが多くを占め、活字離れが進んでいるといえる。

NIEをきっかけに、新聞を読む時間が設定され、3年生を対象に行ったアンケートでは133人(70%)の生徒が「新聞を読んで良かった。」と回答した。本校の生徒にとってNIEは中学生が新聞に親しむための大変良いきっかけになったといえる。

良かったと答えた生徒に、さらに、「どのような点で良かったと思いますか?」と問うと、そのうちの95名(49%)の生徒が「新しい知識が得られる。」を選んだ。また、「知っている知識がさらに深まる。」を選んだ生徒も49名(26%)おり、世界には自分とは違う人がいる、いろいろな出来

事がある、など、知識を得ることの楽しさを感じたようだ。

さらに、「記事を読むことで普段は使わない言葉について詳しくなった。」「TV等と違い、新聞記事だと何回も読み返せるので深く理解できた。」を選んだ生徒も各20名（15%）ほどいた。語彙を増やしたり、文章を反復して読むことで理解を深めたりすることができたようである。

普段ネット上の不確かな情報に触れることも多い生徒達にとって、新聞の文章は難しいかもしれないが、定期的に新聞を読む機会を設けることによって、新聞の魅力に気づき、その良さに気付いたようである。

○課題

「新聞を読むことは良いと思わなかった。」と答えた生徒は57名（30%）だった。そのうちの44名の生徒が「記事の内容に興味を持てなかった。」と答えている。

本校の取り組みは教師側が記事を選ぶことが多く、生徒に自選させることはなかった。ニューススクラップノートは記事を自選することもできるが、新聞購読をしていない家庭も多い。

興味ある記事を自分で選ぶための時間と、多くの生徒の興味を誘うような多様な記事を確保しなくてはならない。

本校の、来年度に向けての新年度計画では「新聞タイム」は継続が決定している。教師の新聞記事が生徒に与える良い影響を感じ取り、今後も生徒に正しい多くの情報に触れてほしいと考えている。

（アンケートは後に続く資料3参照）

実践（１）朝の新聞タイムがきっかけで行われた道徳の記録。学級便りに掲載された物



初の「新聞タイム」がありました

新聞を日頃から読んでいる人はいますか。もしかしたら、新聞をとっていない家庭もあるかもしれませんね。実は私も、忙しい時は読まない（読めない）日が多いかもしれません。毎日とっているのですが、そのため観山中では「新聞タイム」が月に何度かあり、新聞を読んで世の中のできごとや他の人の考えに関心を持つ機会をつくっています。

第1回はこんな見出しです。

「女性は土俵降りて」波紋
大相撲巡業 救助中アナウンス

京都府舞鶴市で4日にあった大相撲春巡業の舞鶴場所、土俵上で倒れた多々見良三・同市長(67)の救助をした女性に、行司が土俵から降りようアナウンスをした問題をめぐり、波紋が広がっている。日本相撲協会は5日、女性に直接謝罪したい意向を示した。

- ・伝統よりも先に命の方を優先するべきだと思った。
- ・私は伝統を守るよりも、たった1つの命を大切にされた方が良いと思います。1人1つしかないものより、また続けられるというものを優先するのは変です。
- ・命と伝統どっちが大切なのかと思った。女性の応急処置がなかったらどうなっていたら良かったらと思います。

多くの人は、上のような「命を最優先するべきだ」という意見をもちました。確かに、かけがえのない命ですから、伝統やきまりよりも優先すべきなのだろうし、そう考える人が多いからニュースになったのでしょう。

一方で、行司の行動をフォローする人もいました。

- ・進行役の人は、市長がいきなりたおれ、冷静な判断ができなくなっていたんだと思う。
 - ・アナウンスの人は若手でこういうことになったので動揺してしまっても仕方ない！今後こんなことが起きないことを願います
- 緊張していて、失敗してしまった経験がある人も多いと思います。失敗や間違いに理解を示す、というのも大切なことですね。「女人禁制」という伝統に疑問をもった女子も多いのではないのでしょうか。

・女性が土俵に上がれない理由が「土俵は神聖なる場所だから」はおかしいと思う。この理由だと女性が神聖じゃないということ。なら男性は神聖なのか？

江戸時代から「女性は土俵に上がれない」というしきたりがあります。現代社会は男女でほとんど差はありませんが、実はつい数十年前まで、男女の立場には大きく差がありました。男性にしか選挙権がない時代もありましたが、そういったものは少しずつ改善され、男性にも、女性にも等しく権利が認められていますよね。ただ、相撲の場合は、「差別」ではなく「伝統・文化」として女人禁制が残っているのです。

最後に、こういった考えを紹介します。

・女性も、行司も「人の命を助ける」「伝統を守る」と両方とも当たり前で、今の立場からして合っていることをしているのに、行司が責められるのはよく分らなかった。

行司は行司で、自分の役割をしっかりと果たそうとしただけ。助けた女性が賞賛される（ほめられる）ことはあっても、行司が責められるのは違うのではないかと、という考えです。どちらの立場のことも考えている、中立な意見だといえます。

みんなそれぞれいろいろなことを考えていて、とても興味深かったので学級便りにしてみました。

これから新聞タイムや学活、授業を通して他の人の価値観に触れる機会を大切にしたいと思います。

実践（4）時事問題テスト

社会科時事&常識問題テスト

できるだけ、漢字を使って答えましょう。自信がない場合はひらがなでもいいです。まちがった漢字に正しいふりがなをふっても×とします。(漢字)と書かれている所は必ず漢字で答えて下さい。

【1】次の問いに答えなさい。(1点×12=12点)

1. 今年度の流行語大賞候補で、昨年の「忖度」に続く、政治的な流行語を、漢字4文字で書きなさい。
2. 現在国会で話し合っている法案で、ある資料に誤った記載があり、法務大臣が謝罪した。この資料は「外国人 _____」資料と呼ばれる物である。当てはまる言葉を答えなさい。
3. 今年度のプロ野球日本シリーズ優勝チームを書きなさい。
4. 2018年7月より、アメリカのトランプ大統領は自国の中国に対する貿易赤字解消のためにある政策に踏み切った。中国もそれに対して報復(仕返し)している。米中両国がとっている経済政策を書きなさい。
5. 以下の国を答えなさい。
①政権批判をする記者が、トルコ内のある国の大使館で殺害された。ある国の名前を書きなさい。
②ロヒンギャ族を虐待し、国際的に非難された国の名前を書きなさい。
6. 6月に開催されたワールドカップの優勝国を答えなさい。
7. 国民の祝日に関する法律の一部を改正する法律(平成30年法律第57号)が平成30年6月20日に公布され、国民の祝日である「体育の日」の名称が改められることになった。新しい名前を書きなさい。
8. 亡くなった漫画家、さくらももこさんが最近静岡市に寄贈した物を書きなさい。
9. 北海道で8月16日に起きた地震について答えなさい。
①この地震をなんと呼ぶか答えなさい。
②地震の影響で、道内が一斉に停電になった。電圧の変化で起きたこの一斉停電をなんと呼ぶか、書きなさい。
10. 2018年10月1日、ノーベル医学生理学賞を受賞した京都大特別教授、本庶佑さんの研究が、開発に大きく関わったオプジーボは、何の病気のための薬か書きなさい。

NIE 生徒アンケート（観山中学校3年生 191名）

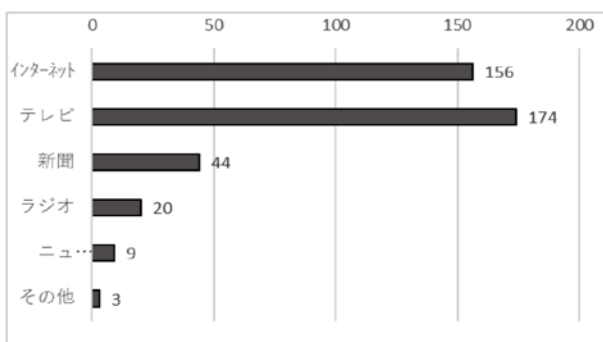
①あなたの家庭では、新聞を取っていますか？



②観山中学校の朝の新聞タイムやニュースノート以外で、新聞を読む機会はありますか？



③あなたがニュースを知るメディアを教えてください。（複数の回答をしても良いです。）



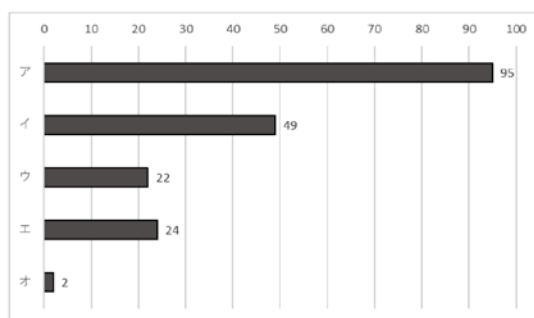
（単位 人）

④観山中学校で、多くの新聞を読み、良かったと思いませんか？



⑤ ④で良かった思った人にききます。どのような面で良かったと思いますか？（複数の回答をしても良いです。）

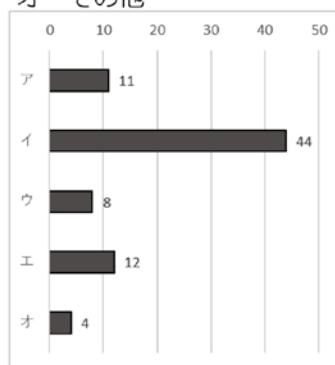
- ア 全く知らなかったことを知ることができた。
- イ 多少知っていることだったが、さらに詳しく知ることができた。
- ウ 記事を読むことで普段は使わない言葉について詳しくなった。
- エ TV等と違い、新聞記事だと何回も読み返せるので深く理解できた。
- オ その他



（単位 人）

⑥ ④で良かったと思わなかった人に聞きます。なぜ、良いと思わなかったのですか？（複数の回答をしても良いです。）

- ア すでに知っている記事が多かった。
- イ 記事の内容に、興味が持てなかった。
- ウ 記事の内容が難しく理解できなかった。
- エ TVやネットニュースのように動画がないと分かりづらい。
- オ その他



（単位 人）

高まる社会への想像力

静岡聖光学院中学校・高等学校 伊藤 大介

1. はじめに

本校は、平成28年度から平成30年度までの3年間NIEの実践指定を受け、新聞を活用した教育活動の実践に取り組んできた。

実践指定を受ける前から、実践担当者自身は社会科教諭として主に授業の現場で新聞を活用してきた。学校全体の取り組みとしてNIEを広げていくためには、どのような方法を考えていけばいいのか。実践校としてはじまった当初は、戸惑いの気持ちがあったことを覚えている。

そのような状況の時、実践を進めていく上で大きなヒントとなる言葉に出会うことができた。

一つ目は、「明るく、楽しく、やさしいNIEを」という言葉。この言葉は、2016年度のNIE推進協議会総会で聞くことができ、肩の力を抜いて実践に取り組む大切さを伝えられたように感じた。

二つ目は、「新聞は、文学に比べて文体は没個性。しかし、社会の現実をあぶり出し、すべてを包摂するもの」という言葉。2016年度のNIE全国大会大分大会で、文学者の立教大学小野正嗣教授が新聞の魅力の一面を講演会で語った時は、新聞のさまざまな魅力をより追究していきたいとの思いが強くなった機会だった。

これらの印象深い言葉を心に留めながら、3年間の実践を具体的にどのように行ってきたのか。以下に、詳細を述べていきたい。

2. 学校全体で取り組む道筋

①担当者の現場から

自ら社会科教諭の一人として、担当学年の教科分野から積極的に新聞記事を活用した授業を構想し、実践する計画を練った。授業だけではなく、長期休暇中の新聞記事を活用した課題も考えた。

②新聞に興味や関心の高い生徒を、まず大切に
各学年、または学校全体からいきなり新聞の魅

力を広げようとかたちだけ整えても、堅苦しく押しつけがましくなってしまうのであれば、NIE実践において逆効果と考えた。そこで、本校の総合学習の活動の一つである「ゼミ活動」を活用する計画を立てた。新聞に興味や関心が高い生徒を、まず少人数で丁寧な指導していくことで、「教員→生徒」になりがちな実践の現場を、「生徒→生徒」というかたちで、新聞の輪を広げていくことを目標に設定した。

③各教員や生徒が、自発的に新聞を活用

学校全体でNIEに取り組むことは、実践校として最初から目標とすべきことかもしれないが、最終的に学校全体への広がりにつなげていくことを目標設定にした。これは他校の実践報告を年度末に聞くにつれて、本来のNIE実践は新聞を日常の風景のごとくその魅力をさりげなく活用することである、という考え方もあるのではないかと担当者が考えはじめていたことが理由の一つとしてあった。

担当者が他教員との対話の中で新聞の魅力を伝え続けていくことが、最終的に学校全体への広がりにつながっていくと考え、実践をはじめていった。

3. 具体的な実践内容

<1>社会科授業において

(1) 新聞の教材化

担当者は、中学と高校の6ヵ年一貫教育の現場で教えているため、毎年度中学の学年と高校の学年の二学年以上の授業をもつことになっている。実践校に指定される以前から、担当教科の特に授業の導入部分で、授業内容に関係のある新聞記事を生徒に配っていた。実践校に指定されてから、新聞記事そのものをより深く追究できるような記事の選択とワークシートの作成などの教材化を授業計画の中で内容を深めていった。以下に述べる

のは、3年間の実践における主に三つの授業実践例である。

【平成28年度 NIE校内研究 高1年政治経済研究授業】

(単元) 財政のしくみとはたらき

(目標) 日本の財政の現状の問題点をつかみ、生徒自身が予算案を考える。

(実践)

- ・国の予算編成と税制改正に関する新聞記事をワークシートのプリントとして作成し、事前に生徒に配る。
- ・3～4人のグループをつくらせ、「自分が政治家になったとしたら、来年度の国の予算編成をどうするか」というかたちで話し合いを行う。
- ・新聞記事の情報以外に、タブレット端末を活用させ幅広く情報を得る環境をつくる。
- ・最後にグループの代表者が発表を行い、質問や意見など議論を深める。



(評価)

- ・時事的な記事を扱うことで、日本の財政を身近なものとして生徒が考えることができた。
- ・新聞記事にある「基礎的財政収支」や「社会保障費」など、あらかじめ考えをまとめるためのキーワードを抜き出してワークシートをつくっていたので、議論や討論をしやすい設定ができていた。
- ・生徒の感想も「新聞などを活用して、みんなで意見を交換し合うのはおもしろかった」「日本の現状を知ることができた」と肯定的なものが多かった。

【平成29年度 県私学新任教員研修会 中学1年地理 研究授業】

(単元) 「日本の領域と領土問題」

(目標) 日本が抱える領土に関するさまざまな問題に、生徒が興味や関心をもち、歴史的経緯を踏まえながら正しく理解できるようになる。

(実践)

- ・北方領土の現状を生徒が理解するために、日ロ共同経済活動の新聞記事を選択した。
- ・記事内容は、北方領土の現場で事態がどのように変化しているか生徒が把握できるように、時系列に沿って二種類の記事を比較できるワークシートを作成した。
- ・日本とロシアのそれぞれの国の立場を、記事内容の事実を確認しながらまとめていった。また、外務省のホームページを資料として活用できるようにタブレット端末を用意し、新聞とICTの活用を連動させた。



(評価)

- ・日本とロシアの北方領土に関するそれぞれの国の主張を、生徒が新聞記事からあらためて確認することができた。
- ・日ロ共同経済活動の新聞記事から、日本とロシアが問題解決のためにどのような努力をしているのか、時事的な視点で生徒が現状をとらえることができた。
- ・新聞記事の読み込みやタブレット端末の活用により比重が置かれた面があったので、教科書の記述内容の確認を丁寧に行いたかった。

【平成30年度 NIE公開授業 中学3年公民】

(単元) 「働きやすい職場を築くために」

(目標) 労働の在り方や雇用をめぐる環境の変化について生徒が関心を深め、生徒自身の将来のこととして働き方を考える。

(実践)

- ・時事的な話題として外国人労働者の受け入れ拡大が国会で議論を呼んでいたため、国会

や政府から伝えられる情報に関する記事と、非正規労働者と無業者支援の記事、そしてパワーハラスメントに関する記事の主に三つの記事を用意した。

- ・授業での議論をより深めるために、各新聞記事の事実内容の確認と自己の見解をまとめるワークシートをつくり、事前に生徒の課題とした。
- ・三つのテーマのワークシートでは、それぞれキーワード（「経営者」「バブル経済」「訴訟」など）を設定し、生徒が内容や意見を絞り込みやすいようにした。
- ・授業ではグループをそれぞれの新聞記事のテーマごとにつくり、各グループによる代表者発表と質問や意見交換の場を用意した。
- ・最後に授業の議論の単元上の位置づけを確認するために、教科書の内容を読ませ、外国人労働者の受け入れ拡大に向けた出入国管理法改正案の衆院本会議の採決の結果を、同日の二つの新聞社の記事を比較させることで、多角的な情報の見方や考え方も確認した。



(評価)

- ・事前課題としてワークシートを生徒がやってきたことは、授業でのグループの議論を深めるためには適切な設定だったという意見が、授業参観者から挙がっていた。
- ・授業担当者がグループごとの机間巡視をしている時、記事内容についての活発な議論が通常の授業よりも行われていた。
- ・タブレット端末も活用し、記事でのわからない用語の検索なども行っていたので、記事内容を生徒自身が深めていくことができていた。
- ・教科書の単元に関連が深い記事を用意してい

たので、まとめとして教科書の記述を生徒が読み合わせていく時も、授業内容を整理できているようであった。

- ・異なるテーマの複数の新聞記事と同一テーマの二つの新聞記事と多面的に記事を組み合わせることで生徒の興味が深まり、多角的に問題をとらえることができていた。
- ・三つの問題をテーマに設定していたことについて、一つの問題に絞って賛成か反対かというような二つの立場で議論する方法もあったのではないか、という感想が参観者からあった。
- ・生徒から「複数の新聞記事を読み比べることで、いろいろな角度から物事を捉えることができる。理解が深まるし自身の考えも膨らむ実感がある」という感想があった。

<2>総合学習の時間において

(1) ゼミ活動～各新聞をじっくり読み込み、比較する。

本校では、中学3年生と高校1年生の総合学習の時間の一つとして、「ゼミ活動」と呼ばれる時間が設定されている。各教員が自身の専門分野や興味・関心を深めているテーマを、各生徒が選択して1年間かけて追究していくという活動である。

このゼミ活動の中で、担当者は「マスメディア研究会」という活動を立ち上げた。本校がNIE実践校に指定される前からこのゼミ活動は取り組みはじめていて、5年間余りの活動実践になるが、募集段階で活動人数を、極力少人数に意識的にしぼっていったところに担当者の意図があった。どれだけ新聞そのものに興味や関心があり、生徒同士で積極的な議論ができるのか。実践活動における生徒の中でのリーダーの養成を、既存の校内の委員会に任せるのではなくやっぴいこうと試みた。

【平成28年度ゼミ活動】

「新聞記事から」社会を考えるというテーマのもとで、新聞記事に掲載されていた島田市牛尾の旧海軍実験所の探究を中心に行った。新聞記事への関心の高まりから、大井川近くの実験所跡地への訪問や県立島田工業高校にある実験所模型の見学にまでフィールドワーク先が広がりを見せた結

果、新聞記事をじっくり探究して取り組む生徒の姿勢の土台を築くことができた。



【平成29年度ゼミ活動】

各社の発行する新聞記事を比較しながら、じっくり読み込むことを活動の中心に据えた。フィールドワーク先としては、静岡新聞社と読売新聞社を訪問させていただいた。静岡新聞社への訪問では新聞記者の方がどのように見出しをつけているのか、取材現場でどのようなことを意識しているのかなど、生徒は幅広く学ぶことができた。また、読売新聞社の訪問では、架空の事件設定のもと生徒が取材記者に扮して、記者の方のご指導のもと原稿をつくるまで体験させていただいた。さらに、ゼミ活動の学園祭（聖光祭）での発表の期間に、ゼミ活動の現場を取材していただいた記事が朝刊に掲載されるということで、新聞が社会を結ぶ架け橋の役割があることを生徒が身をもって体験することができた。



【平成30年度ゼミ活動】

各社の新聞記事を比較し、じっくり読み込むことで新聞の魅力とは何かを前年度以上に追究することを目標に据えた。新聞の魅力を考察する上で、他のメディアとの比較が重要と考え、静岡第

一テレビを訪問したり、また、同年代の学生が新聞というメディアをどのように考え実際に制作しているか理解するために、県立静岡高校の新聞部を訪問したりした。

このようなゼミ活動の成果を、年度末に本校の体育館で発表する機会があり、ゼミ生たちは新聞の魅力、率直な厳しい見方も踏まえた上で同学年や異学年、保護者や他教員に伝えていった。発表を聞いた生徒の感想としては、「新聞の現在と未来を考えていて、本格的な活動だと思った。これからの新聞がどうなるのか気になる」「新聞の魅力について伝わってきた」など発表を聞く生徒に対しても、さまざまな影響を与えることができた。



<3>本校教員の自発的な実践

(1) ホームルームを活用～中学1年生の取り組み

中学1年生の数学科の担当教員が、クラス担任として新聞を読む環境づくりを整備していった。各社の発行する中高生新聞を掲示したり、新聞スクラップを日直が作成し、帰りのホームルームで日直の生徒が1分間スピーチを行ったりした。日直によるスクラップ作りは「新聞日誌」ともいえる。新聞記事の情報を生徒が思考力を鍛える材料としてとらえさせること、生徒の情報処理能力や創造力を高めていくことがねらいとしてあった。この日直日誌から新聞日誌への発想の転換は、教員自身が新聞を魅力的なものとしてとらえ、それを生徒とともに広げ深めていこうという、教員の自発的な取り組みが学校全体への実践の広がりにつながっていった場面だった。

(2) 新聞記者体験～中学1年生の取り組み

中学1年生の学年活動の一つとして、記者体験を実施した。社会見学の訪問先の現場を、新聞の

構成形式でまとめさせ、発表を行った。この活動のまとめとして「学習新聞」というかたちまで発展させることができた。



(3) 職業体験を新聞のかたちに～中学2年生の取り組み

中学2年生の国語科の担当教員の取り組みから、中学2年生の活動の一つである職業体験を新聞の構成形式でまとめていくまでに発展していった。「学習新聞」とともに「職業新聞」というかたちで、新聞を自ら製作することの苦労や楽しさを生徒自ら体験していくことで、実際の新聞への興味や関心を高めていくことができるようになった。



<4>新聞の置き場所と整理の方法

実践校として学校全体に新聞の魅力を伝えたいという思いから、各学年主任に学年の掲示板への新聞掲示を依頼した。「新聞を読むと、より深く社会がわかる」という言葉の下に各社の新聞記事を、バランスを考えながら掲示していった。

また、各階の踊り場に設置されているカフェのような丸机の上に新聞をさりげなく配置することで、「押しつけがましくない、さりげなさ」で、新聞を手にとってもらえる工夫をした。

あるいは、ゼミ活動で新聞記事に関心の高い数人の生徒に掲示する記事を選択させることで、生徒目線の記事掲載につなげていくことができた。その結果、足をとめて記事を見ている生徒や、椅子に座ってくつろぎながら記事を読む生徒が実際に増えていった。



<5>新聞を読み込ませる活動

長期休暇の課題の中で新聞記事を読み込ませるもの考えた。

1年目は中学2年生の歴史と高校1年生の政治経済の科目の夏期課題として、戦争に関する新聞記事の切り抜きをノートに貼り内容をまとめ、生徒が感想や意見を授業内で発表した。

2年目からは、高校2年生の夏期課題として第8回一緒に読もう！新聞コンクールに初めて参加し、3年目は中学3年生の公民の科目の夏期課題として第9回一緒に読もう！新聞コンクールに2年続けて参加した。

その結果、第8回と第9回で本校生徒がそれぞれ1名ずつ奨励賞をいただくことができた。授業内で教員から選んだ新聞記事の読み込みだけではなく、生徒自らが記事を選び意見をまとめていく機会を増やすことで、意見表明の力をより高めていくことにつながっていった。

<6>新聞の魅力とは

実践担当者として、3年間の実践校としての活動を振り返った時に、多面的な新聞の魅力として、以下のことが主にあげられる。

- ・事実の正確さと大切さを学ぶことができる。
- ・情報の一覧性から、さまざまな情報を組み合わせ、考える姿勢を養うことができる。

- ・記事の事実と事実を結びつけていく中で、社会への想像力を高めていくことができる。
- ・読者が社会に包摂されている感覚を養い、社会とのつながりをより感じるができる。

上記のこと以外にも、新聞記事を地道に読み続け、考え続けることによる生徒の意見表明の力の高まりは、主権者教育や本校の社会科の目標の一つでもある「自立した18歳」の養成にもつなげていけることがわかった。

社会科の教員の立場から、使用している教科書の記述内容の確かさを新聞を活用していくことで生徒が気づかされる場面があることが、NIE公開授業を経てあらためてつかむことができた。今後も日々の新聞記事の読み込みと比較を継続して実践していきたい。

<7>今後の課題

- ・学校全体でアンケートをとったわけではないが、実践担当者が担当教科の授業内で聞いた限りでは、新聞をとっていない家庭が増えていることがわかる。実践校というかたちがなくなっても、新聞の魅力を今後も伝え続けていく必要がある。
- ・教員同士の自発的な取り組みから、学校全体への取り組みにさらに広げていくことが必要である。そのために、新聞の内容をさりげなく会話の中で触れていくなど、地道な活動を続けていく。
- ・毎日届けられる新聞を、どのくらいのローテーションで掲示し、貼りかえていくか。速報性の部分と時間が経過したからこそ掲示したほうが良い部分とを見極めて、掲示の仕方の工夫をより考えていく。

新聞を学ぶ、新聞で学ぶ

静岡県立三島南高等学校 岩野 隆

1. 学校紹介

本校は、1918年に三島町立三島商業学校として創立し、2018年に創立100周年を迎える、1学年40人×6クラスの単位制普通高校である。6：4で女子生徒の割合が高い。進路先は、4年制大学への進学が約60%、短期大学・専門学校への進学が約40%であり、民間企業への就職、公務員への就職が毎年10名程度いる。2016～2018年度の3年間、NIE実践指定校として活動を行った。

2. 学校全体で取り組んだこと

今年度から新しく学校全体で取り組んだことが2つある。1つは、切り抜き記事を「つながる」と題し全校生徒に配布したこと。もう1つは、廊下に新聞閲覧コーナーを設置したことである。

2つの取り組みの狙いは以下の通りである。

- ①自分が受け持つ授業だけでなく学校全体でNIE活動に取り組むことで、新聞活用の場を広げる。
- ②新聞を「あって当たり前なもの」にするため、新聞を目にする機会を増やす。
- ③生徒より教員をターゲットにする¹。
- ④小論文・面接対策²。

それぞれの実施方法やその際に配慮したことは以下の通りである。

(1) 切り抜き記事「つながる」の配布

【実施方法】

- ①6人の切り抜き担当教員が順番に記事を選択し、週2回程度、全生徒に配布した³。
- ②切り抜く記事はなるべく本校生徒の進路に関するもの⁴を選択した。
- ③2学期以降は1～3年生の担任や管理職の先生方にも参加してもらった⁵。
- ④表は担当者が選んだ記事とその記事に対する担当者のコメントを載せた⁶。裏には生徒が

感想や意見を書けるように罫線（10行）を印刷した。

【配慮したこと】

- ①切り抜き記事を配布する日は授業のある日が原則⁷。テスト日や登校はするが行事などで授業のない日は避けた。
- ②担任の先生方には切り抜き記事の配布だけお願いした⁸。
- ③本校生徒の記事は号外として発行。教室に掲示してもらった。

(2) 新聞閲覧コーナーの設置

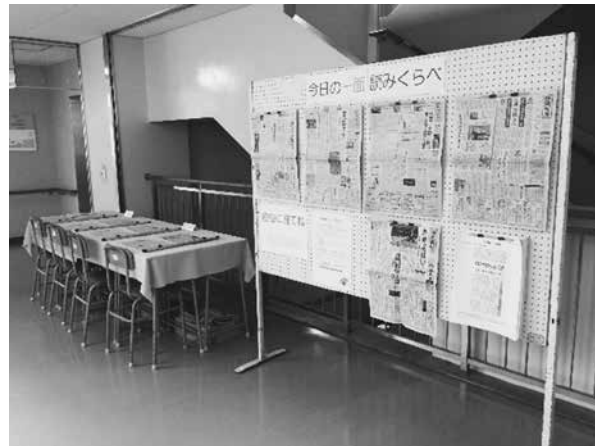
【実施方法】

- ①当日の新聞の一面を掲示。近くに閲覧用の机を設置し、前日の新聞を並べた⁹。また切り抜き記事「つながる」も併せて掲示した。
- ②新聞閲覧コーナーは、一番見てもらいたい3年生の教室近くの廊下に設置。

【配慮したこと】

- ①生徒が登校してくる8時ごろまでに掲示することを心がけた。
- ②夏休み中も、補講などで登校してくる3年生もいるので毎日掲示した¹⁰。

新聞閲覧コーナー



切り抜き記事「つながる」

切り抜き記事「つながる（号外）」



手書き部分は担当者のコメント

3. 授業で取り組んだこと

上記の学校全体で取り組んだこと以外に、自分が授業で取り組んだことについて。3年生に「新聞講読」という選択科目¹¹があり、NIE活動を中心にした授業を行った。以下、授業での取り組みについて説明する。

(1) 授業の目標

授業を通して以下の3つの力を身につけさせることを目標とした。

- ①情報活用力（情報を集めて、まとめて、発信する力）¹²
- ②発想力（アイデアを生み出す力）¹³
- ③対話力（質問する力）¹⁴

(2) 選択科目「新聞講読」での1年間の取り組み
 学期ごとの主な活動は以下の表の通り。まずは「新聞を学ぶ」、次いで「新聞で学ぶ」ということを意識して、年間計画を立て実践していった。

学期	取り組んだこと
1学期	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞について学ぶ（紙面構成、見出しの工夫、新聞の読み方など） ・新聞から新聞を作る ・新聞を作ろう① ・読売新聞への投書
2学期	<ul style="list-style-type: none"> ・静岡新聞出前講座 ・新聞を作ろう② ・キャッチコピーを作ろう ・ディベート
3学期	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞を作ろう③

それぞれの取り組みの概要は以下の通り。

【1学期】

新聞から新聞を作る

- ・1班4人。
- ・同じ日付の4紙（静岡、朝日、日経、読売）の一面から1人1本ずつ記事を選ぶ。
- ・選んだ記事を使って1枚の新聞（1面）をつくる。

- ・新聞社による一面の作り方の違いを考える。
- ・レイアウトの仕方や写真の配置、文章（記事、見出し）の工夫について考える。

新聞を作ろう①

- ・1班5、6人。
- ・「文化祭・体育祭」をテーマに新聞(2面)を作る。
- ・1人1枚ずつテーマに関係した写真を用意する。
- ・用意した写真をもとに2人1組でインタビューを行い、それを記事にする。
- ・各班で編集会議を行い、レイアウトを決め、下書き、清書をして完成させる。
- ・出来上がった新聞を生徒同士で評価する。

読売新聞への投書

- ・読売新聞の「N I E投書編」への投書を依頼され、全員が応募した。その結果2人が掲載された。

【2学期】

静岡新聞出前講座

- ・三島支局長河村英之記者を招き、インタビューの仕方、記事を書くときの注意点などを講義していただいた。

新聞を作ろう②

- ・1班5、6人。
- ・「夏休みの思い出」をテーマに新聞(2面)を作る。
- ・1人1枚ずつテーマに関係した写真を用意する。
- ・出前講座で河村記者に教わったことを踏まえて、用意した写真をもとにインタビューを行い、それを記事にする。

インタビューの様子



- ・各班で編集会議を行い、レイアウトを決め、下書き、清書をして完成させる。
- ・出来上がった新聞を生徒同士で評価する。

キャッチコピーを作ろう

- ・雑誌『宣伝会議』主催の「宣伝会議賞」に全員がキャッチコピーを作って応募。
- ・キャッチコピーを考える際、ブレインストーミングの手法を使い、アイデアを引き出す方法を学ぶ。

ディベート

- ・新聞記事から生徒が1人1本ディベートのテーマになりそうなものを探し、それらを元にディベートを行うテーマを決定。
- ・1班4人。選手（賛成・反対）、審判に分かれ、それぞれの役割を2回ずつ行う。
- ・1回目はテーマをその場で発表し、ディベートを行う。
- ・2回目はテーマを事前に発表。テーマに関して自分の意見を考えた上で、他にどのような意見があるのかをインターネットを使って調べてからディベートを行う。
- ・インターネットを使った情報検索の方法は、本校の司書教諭をゲストティーチャーとして招き講義していただいた。
- ・1回目と2回目の違いをまとめ、グループごとにパワーポイントを使って発表。

編集会議の様子



【3学期】

新聞を作ろう③

- ・1班5、6人。
- ・「HAPPY」をテーマに新聞(2面)を作る。
- ・教員からはテーマだけ与え、細かい企画は生徒が考える。
- ・1人1枚ずつテーマに関係した写真を用意する。

生徒作成の新聞【一面】

(新聞作り②)



生徒作成の新聞【一面】

(新聞作り③)



- ・用意した写真をもとにインタビューを行い、それを記事にする。
- ・各班で編集会議を行い、レイアウトを決め、下書き、清書をして完成させる。
- ・出来上がった新聞を生徒同士で評価する。

4. 1年間の取り組みを終えて

(1) 学校全体での取り組みについて

切り抜き記事「つながる」の全校生徒への配布と新聞閲覧コーナーの設置について、生徒に対してアンケートを取り、その活用度や効果を分析した。結果をみると、活用度やその効果はまだまだ低いといえる。

(2) 授業での取り組みについて

以下は授業の最後に生徒に書かせた感想である。感想はすべて、新聞に対する肯定的なもの、また自分自身の変化に気づくものであった。

「新聞が好きになれて世の中への関心が高まったなあとしみじみ思いました。」

「新聞のすごさに気づくことのできた1年間でした。」

「客観的に物事を見ることが多くなった。」

「他の人の意見を聞いて深く考えることができるようになった。」

「相手に伝えるためにはどういう工夫をすればいいのか考えられるようになった。」

「自分が思っていることや意見をためらわずに発表できるようになった。」

「アイデアが思いつく発想力が身についた。」

「インタビューの時に、相手にどう聞いたら欲しい答えが返ってくるのかを考えられるようになった。」

「積極的に自分から発信できる人間に少しは変わった気がする。」

「この授業を選択して、政治を学びたいという新たな自分を発見し、今までは考えもしなかった法学部への進路を決定した。」

「自分たちで考える時間がとても多くて、やりがいのあるとても楽しい授業でした。」

(3) NIE活動を通じて感じたこと

今回のNIE活動を通じて、新聞の「技術」、「評価」の重要性、新聞を通じた「つながり」に気づくことができた。

新聞には様々な「技術」が詰まっている。取材方法、文の書き方、見出しのつけ方、記事や写真の配置など。子どもたちと一緒に授業の中で新聞作りを行うことによって改めて気づくことができた。それらの「技術」は新聞作りに関わる人々によって長い時間かけて積み上げられてきたものである。そういう意味で、新聞は後世に引き継いでいくべき「伝統産業」であるといえるだろう。子どもたちのモチベーションを維持していくのに、特に「外部」からの「評価」は重要である。今年度は、NIE活動に取り組む子どもたちの様子を静岡新聞や読売新聞に掲載していただいた。またNIE活動以外にも部活動や授業での活動を記事にさせていただいた。それらは切り抜き記事の号外として積極的に発信していった。そのような「評価」は、子どもたちの心に確実に響いていたのではないだろうか。「新聞講読」を受講していた3年生を見ると、学期を追うごとに活動に対してより積極性が増していったように感じられた。子どもたちのモチベーションを上げていくためには「外部」から「評価」をしてもらえる機会、具体的には新聞に取り上げてもらう機会を作っていく必要がある。

3年生の選択授業「新聞講読」の新聞作りでは「インタビュー」に焦点を絞った。その結果、子どもたちは今まで話したことのない友だちと仲良くなったり、友だちの今まで気づけなかった部分に気づくことができたりと、お互いの「つながり」をより深めることができた。また、今回のNIE活動を行って行く中で、本校の先生方をはじめ、NIEアドバイザーの先生方や新聞社の方々など、様々な方々にご協力をいただいた。そのおかげで私自身、ご協力いただいた方々と新しい「つながり」を作れたり、より「つながり」を深めたりすることができた。切り抜き記事の「つながる」という名前には、「社会とつながる」「進路実現につなげる」という意味を込めた。それにとどまらない「つながり」を新聞はもたらしてくれた。新聞には1つのメディアとして、また1つの教材として、様々なものをつなげる力がある。新聞の持つ大きな可能性に気づけた1年間であった。

(4) 今後の課題

自分が担当した授業では一定の成果があったが、学校全体の取り組みでは活用の仕方という点で課題がある。

前述の4(1)のアンケート調査の結果と4(2)の授業の感想をみると、自分が担当した授業に比べて、学校全体での取り組みでは新聞が十分に活用されていないことがわかる。「材料」は提供したが、その「活用方法」が伝えられなかったということである。先生方の負担を考え、活用の仕方を任せたことが原因の1つであろう。切り抜き記事は、先生が配っただけでは子どもたちは読まないし意見も書かない。活用できなければ効果も感じられない。また、しっかり取り組んでいる子であっても、切り抜き記事で取り上げたことが小論文や面接で直接問われなければ、効果がないと感じてしまう。切り抜き記事を通して得られた知識や持った意見が他のことにつながっていかない、ということなのではないか。手元に届く切り抜き記事に関心が持てなければ、当然廊下に掲示してある新聞は素通りである。それらをつなげてあげるのが教員の仕事だろう。協力していただく先生方の負担にならないような活用方法を考え、実践してもらえるようにさらに環境を整えていくことが今後の課題である。

- 1 2つとも生徒向けの取り組みではあるが、まず生徒を指導する教員が必要と感じなければ効果は薄まる、また学校全体で取り組んでいくためには先生方の理解と協力が必要不可欠、と考えた。「将(生徒)を射んと欲すればまず馬(教員)を射よ」ということである。
- 2 「小論文や面接対策になる」ということを動機づけとして利用した。本校の進学者のうち推薦入試・AO入試(受験科目に小論文、面接があり時事問題がテーマとなる)での進学者が約70%。また、一般入試でも時事問題はテーマとなりうることを考え、「(3年かけて)受験までに切り抜き記事を100本見よう」をキャッチコピーとした。さらに、静岡新聞記事検索システム(日経テレコム)を昨年11月から導入しており、小論文・面接対策への効果を期待している。
- 3 今年度は48号まで発行した。
- 4 選択したジャンルは、政治・経済・国際・医療・教育・女性活躍・環境問題・情報・地域・文化芸術。
- 5 少しでも先生方に当事者意識を持ってもらうため

- ある。
- 6 どんなコメントをつけるかは担当者次第だが、必ずコメントをつけてもらった。それが子どもたちの理解を助けたり、考えを深めたり、自分とは違う考え方に気づいたりするきっかけになると思ったからである。
 - 7 学校で記事を読んだり、意見を書いたりする時間を少しでも確保するため。
 - 8 裏に感想や意見を書ける欄はあるが、感想を書かせるかどうかは任意。少しでも先生方の負担(感)を減らし(ただ配るだけでよい!)、取り組みに協力してもらうため。また、配布した切り抜き記事はファイルなどに保管しておくように、担任の先生方に指示してもらった。学年によっては保管用のファイルを用意してもらえた。
 - 9 閲覧できる新聞は次の通り。静岡、朝日、日経、読売は常時。伊豆日日、産経、東京、毎日配達された時。当日の新聞も含め、過去の新聞(1か月程度)を自由に閲覧できるようにした。
 - 10 自分ができないときは、他の先生にお願いした。
 - 11 今年度は32人が受講した。受講生の進路先は私立4年制大学、短大、専門学校、就職(公務員含む)と多岐にわたっている。
 - 12 「情報化社会」といわれるようになって久しい。
 - 13 「AI(と共生する)時代」となり、「何かを新しく生み出していく力」が必要だと感じた。
 - 14 本校の生徒は発表すること(原稿を用意して発表すること)はできるが、質問すること(授業中の質問や質疑応答など)は苦手。
 - 15 手書き。レイアウトは自分たちで決める。スペースに合わせて要約する。記事に付随している写真も使ってよい。
 - 16 各班でKJ法を使って分析したり、「記事に5W1Hが書かれている」「見出し・リードを読めば記事の内容がわかる」「写真が適切に配置されている」などの項目について、それぞれの記事を評価したり、自分が気に入った記事を15秒で紹介しあったりした。
 - 17 読売新聞社からの依頼文より抜粋。「NIE投書編は、2011年4月から毎月1回(最終土曜日)掲載しています。弊紙の投書面(気流)に掲載された投書をテーマに、特定の学校の生徒さん方に賛成、反対それぞれの立場で論じてもらい、選抜した賛否各1本を掲載しています。」
 - 18 恐れず意見を出させることを重視した。それがその後のディベートや新聞作りでのグループ活動にも活きた。
 - 19 新聞に関わる人(インタビューされた人、記事を書く人、記事を読む人など)が「HAPPY」になるような新聞を作る。
 - 20 小論文や面接対策、教科の学習などで役に立ったかなど。
 - 21 配布された切り抜き記事を「毎回または8割以上読んでいる」生徒は5割弱、「毎回または8割以上感想を書いている」生徒は4割程度であった。閲覧コーナーに関してもほとんどの生徒が「見たことはある」「前を通るだけ」にとどまっていた。また、小論文や面接で役に立ったと感じる生徒は約4割、それらを活用したことによる「自分自身の変化」に関しては「世の中の出来事に関心を持つようになった」「TVでニュースを見るようになった」「インターネットでニュースを見るようになった」という生徒や、「知識が増えた」と感じる生徒は約2割であった。

キャリア教育の一環としてのNIE実践

静岡県立遠江総合高等学校 江間 喬

【実践報告概要】

- (1) 遠江総合高校について
 - ①学校概要…どういった生徒・学校か？
 - ②キャリア教育と「遠高16のチカラ」…なぜNIEを始めたか？
- (2) NIEの実践と運営
 - ①NIEの実践（朝NIE・スクラップリレー・新聞掲示版）…何をやったか？
 - ②NIEの運営…どのようにやったか？
- (3) 実践の成果と課題…どうなったか？
 - ①アンケートの分析
 - ②成果と課題

(1) 遠江総合高校について

①学校概要

本校は、周智郡森町にある総合学科の県立高校である。1学年6クラス、約680人の生徒が在籍し、普通科に加え、農業、工業、商業、福祉といった専門科の授業も学んでいる。卒業後の進路は、毎年おおむね進学と就職とで半数ずつで、大半の生徒が、地元の学校や企業へと進む。森高校と周智高校が統合した新しい学校で、平成30年度で10周年を迎えた。

②キャリア教育と「遠高16のチカラ」

本校の生徒の課題として、学習面やキャリア発達において、中学校段階の内容が身に付いていない生徒が多いことや、自己肯定感・自己有用感が低く、全般的に受身で、主体的に物事に取り組む姿勢が弱いことなどがある。生徒には、経済的・精神的に自立し、一人一人が満足できる人生を、安全に、幸せに生きていって欲しい。厳しい社会をたくましく生き延びていって欲しい。そのための力を育てたい。このような願いから、本校では、キャリア教育を核として、教育活動を見直し、再構成する学校改革を行った。平成

29年度、「キャリア教育全体計画」を策定し（※）、本校卒業時に目指す生徒の姿＝3つのキャリア教育目標と、社会的・職業的自立に必要な力としての基礎的・汎用的能力＝遠高16のチカラを設定し、その実現のための新しい教育プログラムを開始した。その一環として、NIEの実践指定をうけた。様々な人の考えを理解し、自分の考えを伝え、多くの人と協働して地域社会に積極的に参画し貢献できる人材を育成したい。そのための支援教材として、新聞の活用を考えた。※「キャリア教育全体計画」は、本校HPよりダウンロードできます。

(2) NIEの実践と運営

①NIEの実践

実践の具体的事例は、下表の通りである。育てたい「遠高16の力」として、伝える力・聴く力・課題を発見する力・まとめる力・選択する力・学びに向かう力を想定し、新聞の力を活かした活動を行った。この中から、朝NIE・スクラップリレー・新聞掲示版の3つを紹介する。

- ・朝NIE（H29～）
- ・スクラップリレー（H29～）
- ・新聞掲示版（H30～）
- ・「しずおか新聞感想文コンクール」全校参加（H29～）
- ・新聞読み方講座（出前講座）（3年次生、H29.12月、H30.4月）
- ・新聞閲覧台の増設（3年次廊下・相談コーナー・生徒ホール、H29～）
- ・新聞データベースの導入（H29～）
- ・新聞投稿と掲示（授業内で実践、H21～）

1) 朝NIE [写真1]

実践の柱として、平成29年度から開始した。本校では、毎日、登校時間の8:20から

S H R 開始の 8:30 までの 10 分間を「朝読書」の時間に設定している。この時間を使って、毎週木曜日を「朝NIEデー」とし、新聞記事を使ったワークシートに取り組むこととした。ワークシートは、教員のお勧めの新聞記事について、内容の読み取りをさせ、自分の感想や意見を書かせるものとした。各年次で同じワークシートに取り組むこととし、作成は、年次の教員が輪番で行った。回収したワークシートは、担任・副担任または課題作成者がチェックした後、生徒に返却し、「S U T（総合的な学習の時間）ファイル」に保管させた。クラスによっては、面白い作品を教室に掲示するなどして共有をはかった。生徒・教員の多くが、「新聞を通じて社会を知ることができた（聴く力・課題を発見する力）」「感想を書いて書く力がついた（伝える力）」「社会の動きを知ることが大切だと思うようになった（学びに向かう力）」と感じている。



[写真1] 朝NIEワークシート

2) スクラップリレー [写真2]

NIE実践指定校に提供される新聞7紙をクラスに配布して、スクラップノートを作った。各クラスで新聞当番を決め、その当番が新聞記事を切り抜き、クラスのスクラップノートに貼る。ノートには、記事についての要約と、自分の感想を書く。このとき、記事を選ぶ人と感想を書く人を別にして、リレー形式で行った。当番の仕事としては、要約と感想を書き→次の人が読む記事を選んで貼って提出となる。ノートは担任や副担任がチェックし、次の当番に返却する。朝NIEは教員が記事を選ぶ、スクラップリレーでは生徒が自分の興味や関心に基づいて選ぶ。それについて、別の生徒の感想を読めるように

なることがノートの価値を高める。



[写真2] スクラップリレー

3) 新聞掲示版 [写真3]

生徒が毎日通る階段の踊り場2か所に、新聞掲示版を設置した。担当クラスの日直当番が、新聞記事を選んで切り抜く。また、簡単なコメント用紙を用意して、これに感想を書き、記事とともに掲示版に貼る。掲示版がいっぱいになったら、古い記事から外していく。シンプルな取組だが、生徒も楽しんで取り組み、教員も生徒が何に興味をもっているのか分かって良かったと成果を感じている。



[写真3] 新聞掲示版

②NIEの運営

活動の運営は、校内に「NIE推進委員会」を設置して行った（資料1）。要項や役割分担などの書類を整え、運営委員会と職員会議をとおして、全校の活動の方針とした。実際の運営は、各年次主任が活動内容を確認し、どのような活動が可能か話し合いながら形をつくり、年次で仕事を割り振った。

「朝NIE」は、当初の1学期間は、3年次のみで試行した。このときのワークシート作成は委員会で行った。生徒の取組の様子を

みて、2学期から全校実施を開始した。平成30年度は、4月から全校で実施した。年度初めに1年間の分担計画を提示し、全職員で輪番で作成してもらった。担当者の仕事は、「朝NIE」の前々日の火曜日までに、課題プリントを作成し、年次と教員の人数分印刷し、各HRの配布物ボックスと教員のレターケースに入れることで、これが1年で1、2回ある程度である。ワークシートの雛形をデータで共有できるようにして、作成の手間を軽減したほか、図書課で導入してもらった「新聞データベース」が記事探しに大いに役立った。ワークシートのチェックは、1年次は担任または副担任が行い、2年次は作成者が行っている。このように、年次の実情に合わせて柔軟に対応してもらいながら、「朝NIE」は全校実施することができた。

「スクラップリレー」は、クラスの状況によって、回せているクラスとそうでないクラスがあるのが実情である。新聞の提供期間だけの活動だと、40人のクラス全員に回りきらないという課題もあった。

(3) 実践の成果と課題

①アンケートの分析

生徒と教員を対象に行ったアンケート結果から、取組の成果と課題を考察した(資料2)。まず、普段どの程度新聞に接しているか現状を確認した質問1,2では、

- 1) 新聞を取っている家庭は6割程度。学年が下がるほど減少している。(61%, 59%, 56%)
- 2) 生徒の9割以上が、新聞をほとんど読まない。

次に、NIEの実践で新聞やニュースに触れる機会が増えたかどうかを聞いた質問3,4では、

- 3) 生徒の6割が、NIEを新聞に触れる機会としてとらえている。
- 4) 生徒の7割弱が、NIEで社会のニュースに関心を高めた。

ニュースの話題が増えたことは、実践の成果と言える。一方、NIEを入り口として、実際の新聞を手にとるという行動に移せる生徒は限られるのが実態だということも言える。

そこにどのようにアプローチしていくのが課題である。

続いて、具体的な力が身に付いた実感があるかどうかを聞いた質問5,6,7では、

- 5) 生徒の6割強が、NIEで社会の動きについて知識を増やしたと実感している。
- 6) 生徒の6割弱が、国語力が高まったと感じている。
- 7) 生徒の6割が、書く力が高まったと感じている。

「遠高16のチカラ」を育てるにあたって、NIEの取組に効果があったことが分かる。一方で、4割の生徒は力の向上を実感できていないということでもある。教員のアンケートの回答にもあるように、力をつけさせるためには、さらに踏み込んだ指導が必要であると言える。

さらに、生徒が自己理解を深められたかという質問8では、

- 8) 自己理解を深めたと感じている生徒は半数にとどまる

原因としては、本校の実践では、自分で記事を選ぶ活動が少ないことがある。しかし、新聞掲示板を担当した21HRの回答では、「そう思う」と「やや思う」を合わせて70%であり、こうした活動に効果があることは認められる。どのように広げていくかが課題である。

最後に、社会とつながる必要性をどの程度意識しているかという質問9では、

- 9) 生徒の8割弱が、社会を知ることの必要性を感じるようになった。

生徒も知りたいと思っている、という気持ちの表れと感じる。自由記述の欄に、1,2年では、ニュースを知るならネットやTVで十分という生徒もいたが、3年にはいなかった。「新聞の読み方講座」(出前講座)で新聞記事がどのように作成されているか話を聴いていた成果とも考えられる。

教員を対象にしたアンケートは、ほぼ全てが肯定的な回答であった。

②成果と課題

以上により、NIEの実践は、生徒に「社

会を知る」必要性を伝え、社会的・職業的自立に必要な力としての基礎的・汎用的能力＝遠高16のチカラを伸ばすために、一定の成果があった。

また、本校の先生方は、新しくキャリア教育のプロジェクトが始まり、本当に多忙である。その先生方にしてこの回答というのは、「この程度のひと手間」、「これだけ生徒がやれるなら」、「やってもよい」と感じているのだと思われる。これが「やるべきだ」になるには、「新聞で」という手段の妥当性や有用性について、生徒はもちろん教員にも丁寧に説明する必要がある。

今後の取組として考えられるものについて述べる。1つ目は、キャリア教育の新しいプロジェクトに、何らかの形で新聞を活用することである。活動の様子を掲載していただく機会も多く、生徒にとってはやる気につながっている。2つ目は、生徒主体の活動にすることである。具体的には、図書委員会や新聞委員会の活動内容として、新聞掲示を行うことなどが考えられる。3つ目は、朝NIEの継続である。実践指定は終了するが、前述のようなアンケート結果もあり、今の形で継続することは可能だと考えている。

最後に、NIEで伸ばせる力は、キャリア教育の目指すものと重なる部分大きい。キャリア教育の展開を模索している学校にとって、NIEは有効であろう。

本校の教育目標を一言で表した言葉は「自立」である。これは、「自分の力を発揮して、人の役に立つこと」と定義している。生徒の力を伸ばし、社会の中で「自立」できるようにする、そのために新聞の力を活用する、という姿が、本校におけるNIEである。

【資料1】NIE実施要項（職員）

NIE推進委員会

平成30年度 NIE実施要項

1 NIE（エヌ・アイ・イー）の目的

※NIE（エヌ・アイ・イー）教育に新聞を活用するという意味。

- (1)本校の教育目標「個性の伸長を図るとともに、社会の変化に主体的に対応し、地域社会の発展に寄与する人材の育成をめざす」**新聞で、社会の動きを知り、その中でどう生きていくかを考えさせる。**
- (2)本年度学校経営計画書「NIE実践指定校2年目としての取組の充実と発表。朝NIE週1回の活用」→朝読書の時間等を利用し、**社会から学び社会に向け発信するキャリア教育の一環としてのNIE学習を実施**する。

2 育てたい能力

「遠高16の力」

①伝える力 ②聴く力 ③課題を発見する力 ④まとめる力 ⑤選択する力 ⑥学びに向かう力

1年次生…自己理解力（新聞スクラップ等で自身の傾向を知る）

2年次生…課題対応力（地元森町の記事に関心を持ち、地域で生きることを探究する態度）

3年次生…生涯学習の基礎（「社会の変化に主体的に対応できる人材」本校の教育目標）

3 「朝NIE」の具体的な活動内容

- (1)週1回、毎週木曜日を「朝NIEデー」とする
 - (2)朝読書の時間10分間で実施。可能なら帰りのSHR5分程度活用
 - (3)各年次で同じ課題に取り組むことが原則
 - (4)課題は、各年次先生お勧めの新聞記事を輪番で作成する（年間1回か2回担当）
 - (5)読む→書く（10分 朝読書の時間）
 - (6)新聞記事紹介等口頭発表（5分 帰りのSHR、2～3人…HRの実態で判断）
 - (7)おもしろい作品は教室に掲示（各HRで判断）
 - (8)「SUTファイル」に保管
- 4 提供される新聞7紙各1部（朝日・毎日・読売・日経・産経・静岡・中日）4か月間の使用法
- (1)学年ごと6クラスに配布
（3年：5月、9月前半）（2年：7月、1月前半）（1年：9月後半、1月後半）
 - (2)使用法の例
 - ①スクラップリレー（各HR。切り抜き、貼付、感想、SHRで紹介。当番日誌のように輪番）
 - ②新聞は各HRで処理（持ち帰り・古紙）

5 朝読書・朝NIE・朝学習

(1)朝読書の目的

- ①落ち着いた環境で1日をスタートする
- ②読書習慣を身に付け、生活習慣の改善を図る
- ③生涯を通じて学習する習慣を身に付ける

(2)考察

生徒の多くは①「落ち着いた環境で1日をスタートする」ことはできている。②③「生活習慣の改善」「学習習慣の定着」は、課題である。課題克服のために「朝NIE」「朝学習」を提案する。実行しながら軌道修正していくことが肝要だと考える。

6 係分担

メンバー：副校長・教頭・◎図書課長・研修課長・1年次主任・2年次主任・3年次主任・○江間・△小杉

No	係	具体的な仕事	担当（先頭が責任者）
1	会議の企画・運営	NIE全般	図書、江間、小杉
2	NIE実践報告	H31年2月中旬土曜日、静岡新聞放送会館	江間、図書
3	「朝NIE」「朝学習」	企画・調整（朝NIE・朝読書・朝学習）・保管・啓発	図書・年次主任・（進路）・（教務）
4	NIE用の新聞受取運搬	5・7・9・1月	該当年次主任
5	学校購読の新聞設置	4～3月、生徒ホール、相談コーナー、学年廊下	図書、該当年次主任
6	新聞スクラップリレー	企画、調整	年次主任
7	資料収集・保管	あらゆる場面でのNIE資料収集・保管	図書、教頭
8	本校関連記事の収集・掲示	本校関連記事の収集・掲示	教頭、図書
9	県NIE推進協議会：窓口	新聞配達依頼・報告・出前授業の依頼	図書
10	秋山・山口新聞店：窓口	新聞配達依頼・授業で使用する新聞依頼	図書
11	新聞投稿：窓口	新聞社からの問い合わせに回答	小杉
12	「今日の新聞記事」放送	放送委員会	放送委員会
13	「今日の新聞記事」掲示	新聞委員会	新聞委員会
14	新聞感想文	企画・運営・送付	（国語科）
15	アンケート	作成・集計・分析	図書、江間
16	新聞データベース	管理	図書

※「朝読書」「朝NIE」「朝学習等」等、朝の10分間をどう活用するか、関係諸機関で検討が必要。

【資料2】アンケート結果

	1 1そう思う	2 ややそう思う	3 あまり思わない	4 全く思わない
2019. 2. 7, 8 実施、回答数生徒 642、教員 17 (上段の数字が生徒、下段が教員、コメントは教員のもの)				
1 家庭で新聞をとっていますか？ (1はい 2いいえ)	59%	41%		
2 朝NIE以外で、新聞をどの程度読みますか？ (1毎日 2よく読む 3たまに読む 4全く読まない)	2%	5%	26%	68%
3 高校でNIEの取り組みをしていることで、新聞を読む機会が増えた。	5% (13%)	57% (87%)	13% (0%)	24% (0%)
4 ふだんの会話の中で、社会のニュースが話題になることが増えた。	6% (0%)	61% (100%)	15% (0%)	18% (0%)
5 新聞を読んで、今の社会の動きがより分かるようになった。 【聴く力】【課題を発見する力】	9% (6%)	56% (71%)	24% (23%)	12% (0%)
6 新聞記事を要約したり、問題に答えたりすることで、まとめる力がついた。 【まとめる力】	9% (6%)	49% (81%)	30% (13%)	11% (0%)
7 自分の感想を書くことで、文章を書く力がついた。 【伝える力】	11% (6%)	50% (63%)	29% (31%)	10% (0%)
8 自分で記事を探して選ぶことで、自分の好きなものや興味のあることが分かった。 【選択する力】	9% (6%)	44% (64%)	31% (30%)	17% (0%)
9 新聞を読むなどして、社会の動きを知ることは大切だと思うようになった。 【学びに向かう力】	24% (12%)	54% (88%)	14% (0%)	8% (0%)

◎成果

- ・「朝NIE」を全校で展開できたこと。それにより、新聞を読める環境を設定できたこと。
- ・生徒が新聞記事を読むことに慣れるのはよかった。特に新聞を取っていない家庭。(多数)
- ・世の中を知り、社会について考え、社会の動きを垣間見ることができた。(多数)
- ・各先生がいろいろなトピックを提供してくれた。(多数)
- ・教員の考え方や普段のこだわりを反映できる記事を選んだ。出題者にとっても楽しかった。(多数)
- ・クラス全体で文字を読む時間を持って、落ち着いた環境づくりができた。集中して取り組めた。(多数)
- ・生徒の書く力がかなりついてきた。気を楽にして思ったことを表現することに意識を持って行った。時にはやりながら解説もした。
- ・文章から必要な情報を取り入れるトレーニングになった。
- ・入試での面接対策になる。また、志望理由書や履歴書の対策になる。自分の感想を書いたプリントをためておくことで、後々の資料にできる。
- ・新聞の切り抜き掲示は、どんなことに興味を持っているかやその記事に対する感想が分かってよい。生徒も楽しんでいる。
- ・日頃は関われない生徒の頑張りを見ることができた。
- ・「読む」「書く」などの基礎基本は継続することが大事。ゆったりやらなかったりはよくない。週に一回のペースは生徒にも教員にもよかった。

△課題

- ・「朝NIE」で生徒に力をつけさせる詰めが甘い。やらせっぱなしでは力をつかない。代表者にスピーチをさせる、良いものを掲示するなどのひと手間が必要である。教員が内容の解説や自分の感想、取組の意義を一言語るだけでも生徒には影響する。
- ・実施後の対応。もう少し突っ込んで読ませたり書かせたりしたい。(多数)
- ・取組が落ち着くまで9か月くらいかかった。もう少し早く落ち着かせたい。
- ・文章を読み取れない生徒は何も書けないことがあった。学習障害への配慮。
- ・新聞紙がかさばるところ。
- ・問題作成の担当をうっかり忘れてしまう。
- ・スクラップリレーがやりきれない。クラスの半分くらいしか回らなかった。
- ・「朝NIE」の記事を選ぶとき、難易度(読みやすさ)が生徒の取組にとっても影響する。

□そのほかの新聞活用

- ・国語の授業で、新聞店の協力を得て一人一部配布し、記事を読んだの新聞投稿
- ・公民の授業で、導入に使用
- ・美術の授業で、ポスター制作(選挙に行こう!)の事前学習として使用
- ・担任クラスで、生徒に読ませたい記事を教室に掲示

静岡県N I E 推進協議会 実践指定校一覧

- 2000年度 熱海高、磐田・城山中、静岡西高、静岡聾学校、天竜・下阿多古中、静岡・長田南小、浜松・東小、三島・佐野小、掛川・桜木小
- 2001年度 静岡西高、静岡聾学校、天竜・下阿多古中、静岡・長田南小、浜松・東小、三島・佐野小、掛川・桜木小、長泉高、小山・北郷中、浅羽中
- 2002年度 長泉高、小山・北郷中、浅羽中、静岡城北高、磐田南高、浜松城北工業高、静岡中央高、焼津中、湖西中、静岡・富士見小、熱海・初島小、浜北・大平小
- 2003年度 静岡城北高、磐田南高、浜松城北工業高、静岡中央高、焼津中、湖西中、静岡・富士見小、熱海・初島小、浜北・大平小、天竜養護学校、加藤学園暁秀中・高、浜松・江南中
- 2004年度 天竜養護学校、加藤学園暁秀中・高、浜松・江南中、沼津城北高、静岡サレジオ高、城南静岡高・中、浜松・天竜中、韮山中、磐田東中・高、富士宮・大富士小、大井川東小、掛川・日坂小
- 2005年度 沼津城北高、静岡サレジオ高、城南静岡高・中、浜松・天竜中、韮山中、磐田東中・高、富士宮・大富士小、大井川東小、掛川・日坂小、湖西高、沼津高中等部、岡部中、浜松・芳川北小
- 2006年度 湖西高、沼津高中等部、岡部中、浜松・芳川北小、清水西高、日大三島高・中、東海大付属翔洋高、西部養護学校、磐田・一中、浜松日体中・高、静岡・長田北小、浜松・竜禅寺小、牧之原小
- 2007年度 清水西高、日大三島高・中、東海大付属翔洋高、西部養護学校、磐田・一中、浜松日体中・高、静岡・長田北小、浜松・竜禅寺小、牧之原小、不二聖心女子学院、沼津・静浦中、静岡・安東小、浜松・豊岡小、御前崎・一小
- 2008年度 東海大付属翔洋高、不二聖心女子学院、沼津・静浦中、静岡・安東小、浜松・豊岡小、御前崎・一小、大井川高、浜松・雄踏中、磐田・豊田南中、御前崎・浜岡中、静大付属静岡中、静岡・清水小河内小、三島・徳倉小、清水町立南小
- 2009年度 浜松・豊岡小、御前崎・一小、大井川高、浜松・雄踏中、磐田・豊田南中、御前崎・浜岡中、静大付属静岡中、静岡・清水小河内小、三島・徳倉小、清水町立南小、川根高、浜松江之島高、富士・吉原三中、浜松学芸中・高、静岡・大里西小
- 2010年度 御前崎・浜岡中、静大付属静岡中、川根高、浜松江之島高、富士・吉原三中、浜松学芸中・高、静岡・大里西小、常葉学園中・高、下田東中、島田・金谷中、袋井中、静岡・東源台小、浜松・与進小、東伊豆・稲取小
- 2011年度 浜松江之島高、浜松学芸中・高、常葉学園中・高、下田東中、島田・金谷中、袋井中、静岡・東源台小、浜松・与進小、東伊豆・稲取小、島田高、島田樟誠高、静岡・清水五中、浜松・北部中、御殿場・南中、磐田・神明中
- 2012年度 常葉学園中・高、島田・金谷中、磐田・神明中、静岡・東源台小、浜松・有玉小、島田高、島田樟誠高、静岡・清水五中、浜松・北部中、御殿場・南中、富士宮東高、掛川工業高、浜松・三ヶ日中、焼津・大村中、静岡・安西小、静岡・城北小、沼津・原小、静岡サレジオ小

- 2013年度 富士宮東高、掛川工業高、浜松・三ヶ日中、焼津・大村中、静岡・安西小、静岡・城北小、沼津・原小、静岡サレジオ小、金谷高、浜松城北工業高、静岡・高松中、浜松・積志中、裾野・深良中、島田高、常葉学園中・高、島田・金谷中、静岡・東源台小、浜松・有玉小
- 2014年度 金谷高、浜松城北工業高、静岡・高松中、浜松・積志中、裾野・深良中、裾野高、駿河総合高、島田商業高、静岡・清水興津中、南伊豆・南伊豆中、静岡・清水三保第一小、浜松・平山小、富士・田子浦小、島田・川根小、浜松・三ヶ日中、焼津・大村中、静岡・安西小、浜松・有玉小
- 2015年度 裾野高、駿河総合高、島田商業高、静岡・清水興津中、南伊豆・南伊豆中、静岡・清水三保第一小、浜松・平山小、富士・田子浦小、島田・川根小、東海大付属小、金谷高、静岡・高松中、浜松・積志中、裾野・深良中
- 2016年度 駿河総合高、島田商業高、静岡・清水興津中、南伊豆・南伊豆中、富士・田子浦小、東海大静岡翔洋小、三島南高、静岡聖光学院中・高、浜松・可美中、裾野・富岡中、静岡・井宮小、富士宮・上井出小、森小
- 2017年度 東海大付属翔洋小、三島南高、静岡聖光学院中・高、浜松・可美中、裾野・富岡中、静岡・井宮小、富士宮・上井出小、森小、遠江総合高、静岡・観山中、本川根中、富士宮・西富士中、浜松・西都台小、静岡聴覚特別支援学校
- 2018年度 三島南高、静岡聖光学院中・高、富士宮・上井出小、静岡・井宮小、遠江総合高、富士宮・西富士中、静岡・観山中、本川根中、浜松・西都台小、静岡聴覚特別支援学校、清水西高、菊川西中、西伊豆・田子小、静岡・清水飯田小

静岡県N I E推進協議会

〒422-8033

静岡市駿河区登呂3丁目1番1号

(静岡新聞社内)

TEL 054-284-9152

FAX 054-284-9362